



ISSN 1881-6541

都市を考え、都市を創る情報誌  
エフ・ユー  
プラス

Fukuoka Asian  
Urban  
Research  
Center

NO. 10



都市を考え、都市を創る情報誌  
[エフ・ユー プラス]

URC  
Fukuoka Asian  
Urban Research Center

都市情報誌  
エフ・ユー・プラス第10号  
2010年12月17日発行

特集

風水害からまちを守る

— 公助から自助・共助・公助へ —

f  
+  
fu  
+  
NO. 10

Fukuoka Asian  
Urban  
Research  
Center

都市を考え、都市を創る情報誌  
[エフ・ユー プラス]

エフ・ユー  
プラス





## C O N T E N T S

### 特集 風水害からまちを守る

- ページ
- 01** 公助から自助・共助・公助へ
  - 02** 防災・危機管理にむけた福岡市の取り組み  
～福岡市市民局長・阿部亨氏に聞く～
  - 04** 風水害に強いまちをつくるインフラ整備  
～福岡市道路下水道局～
  - 05** 風水害時の消防活動  
～福岡市消防局～
  - 06** 福岡市洪水ハザードマップ
  - 08** 福岡市における近年の都市型水害の現状と課題  
福岡大学工学部社会デザイン工学科 流域システム研究室 准教授 渡辺 亮一  
福岡水害(1999年・2003年)を経験して
  - 10** 福岡市での市民による風水害対策  
地域と行政が共働で災害対策に取り組む  
福岡市東区区政推進部総務課 防災・危機管理係長 守田 宜昭  
樋井川流域治水市民会議  
樋井川流域治水市民会議 発起人代表/九州大学大学院工学研究院 環境都市部門 教授 島谷 幸宏  
防災どんたく～ぼくらは防災に悩まない 楽しくて身に付ける～  
防災どんたく実行委員会 世話人 波多江 勇一
  - 13** 自分でできる風水害被害軽減対策  
車の浸水トラブルを防ぐ  
(社)日本自動車連盟(JAF)九州本部・福岡支部  
防災センターで、乗る!見る!見る!体験する!  
(財)福岡市防災協会
  - 14** 防災技術  
環境循環型土のう  
都市の水循環健全化への取組み (社)雨水貯留浸透技術協会  
治水グラウンドで都市型水害に備える
  - 16** 他都市事例～神戸市・宮崎県～  
市民のオアシス都賀川  
～市民と行政の協働による川のある地域づくり～  
都賀川を守ろう会 会長 清水 康之  
宮崎県の風水害への取り組み  
～平成17年台風第14号災害を教訓として～  
宮崎県総務部危機管理局危機管理課 主幹 松野 義直
  - 18**まとめ  
都市防災(風水害を中心に)～公助から自助・共助・公助へ～  
九州大学大学院工学研究院 環境都市部門 准教授 橋本 晴行
  - 20**URC研究員レポート  
ショッピング、グルメだけでない韓国への旅  
釜山周辺の日本ゆかりの歴史文化遺産の紹介  
(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 新井 直樹
  - 22**福岡アジア都市研究所セミナー  
持続可能な都市と農山漁村の形成に向けて  
アジア都市景観賞設立記念関連行事  
「アジアハビタットフォーラム」
  - 26**データで見る福岡市 vol.10  
(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 田村 一軌
  - 28**アジア文化  
日韓少女漫画事情②  
日本で読まれる韓国少女漫画  
一氣になる韓国最新作品、楽しさの共有～  
福岡女学院大学 人文学部現代文化学科 准教授 佐島 顕子
  - 30**アジア太平洋都市サミット  
第9回アジア太平洋都市サミット(市長会議)  
INウラジオストク開催!  
(財)福岡アジア都市研究所 主任研究員/アジア太平洋都市サミット事務局  
山下 永子
  - 32**中国街角スケッチ  
万博に沸く上海②～ボスト万博～  
(財)福岡アジア都市研究所 主任研究員 唐 寅
  - 33**インフォメーション/次号予告

■表紙写真:  
左上:防災訓練(写真提供:福岡市消防局)  
右上:東区多々良校区防災対策検討ワークショップ(写真提供:福岡市東区総務課)  
左下:浸水被害解消に向けて河川改修工事中の周船寺川(西区)(写真提供:福岡市道路下水道局)  
右下:河川改修工事が完了した区間の周船寺川(西区)(写真提供:福岡市道路下水道局)

■裏表紙写真:  
2003(平成15)年7月19日、博多駅周辺の被災状況。右手前が博多駅、中ほど左右に流れるのが御笠川(写真提供:福岡市市民局防災・危機管理課)

## 特集

### 風水害からまちを守る —公助から自助・共助・公助へ—

1999(平成11)年と2003(平成15)年に九州・福岡の玄関口である博多駅が浸水した福岡水害。さらに、地球温暖化の影響も原因とされる、いわゆるゲリラ豪雨は、2009(平成21)年に中国・九州北部を襲った。福岡市では、このような水害の頻発から、市民の生命と財産を守るべく防災意識が高まった。

そこで過去の水害を教訓に様々な取り組みがなされ、着実に成果をあげてきた。福岡市は、「災害に強く、安全で安心して暮らせる都市となる」を政策目標に掲げ、浸水対策重点地区の整備、災害発生時の避難所の周知向上など努力を行っている。しかし、行政のみでは対応しきれない状況に、様々な主体が共に自分たちの地域の防災を考える試みを行っている。住民・NPO・大学の共同活動、住民と行政の共働など、活かつ時流にかなつたものだ。

河川の整備などのハード面、危機管理体制作りのソフト面、そして災害時の救援活動といった従来から行政が担っている公助のみから、まず市民が自らの身を守る自助、地域住民同士でお互いの安全を守るため自主防災組織の結成などの共助が重要であるとの認識も増してきている。

いつ、どこで起こるのか予想困難なゲリラ豪雨などの自然災害。自分たちそれぞれの立場で対策を考え行動していこう。

# 防災・危機管理にむけた 福岡市の取り組み

## ～福岡市市民局長・阿部亨氏に聞く～



ー福岡市では、近年大規模な水害がおこり、市民の防災意識が高まっています。過去の水害の被害状況と市民局防災・危機管理課がどのような役割を担っているのかをお話いただけますか。

平成11年6月29日と平成15年7月19日の福岡水害では、御笠川の氾濫により博多駅周辺が浸水し、甚大な被害が生じました（写真1・2）。福岡市はこの経験を踏まえ様々な対応を行ってきましたが、平成21年7月「中国・九州北部豪雨」では、観測史上最高の時間雨量116mmを記録し、市内各地で、床上床下浸水、道路冠水、崖崩れ等が発生しました（写真3）。福岡市はこうした水害の被害経験を踏まえ、防災・危機管理体制を強化しています。次に、防災・危機管理課の役割についてですが、防災・危機管理課は事務職員だけでなく土木技術職員、さらに消防局と福岡県警からの派遣も含む15名で自然災害、テロ、感染症対策等、幅広く防災・危機管理にあたっています。災害・危機事案発生時は、対策本部を設置し全市的な統括調整を行い、平常時は、防災・危機管理体制の整備、市職員への防災・危機管理研修の実施、防災・テロ訓練、市民の皆さまへ防災知識の普及啓発等を行っています。

ー防災・危機管理の幅は広いのですね。さて、水害への取り組みをもう少し

具体的にご説明ください。最近は、情報通信機能の充実が図られていますね。

水害対策は、まずハードの整備－河川や治水池、下水道等－が肝要です。市民局はソフト面での対策を担い、災害時に市民の皆さまの被害を最小限に食い止めることができます。市民の皆さまが速やかに避難行動をとるために、被害状況等の情報の収集・伝達を強化しています。平成21年の水害後、防災気象情報システムの機能の充実を図りました。例えば、河川水位計を13ヶ所から18ヶ所に、河川監視カメラを15ヶ所から20ヶ所に増設し、さらにきめ細かい河川の状況を把握することが可能になりました。次に、デジタル式防災行政無線の整備を平成20年度から開始し、今年度に全722局が整備完了予定です。従前のアナログ式に比較し、通信機能が非常に強化されました。府内の内線電話と通信したり、同時双方向での会話が可能ですので、災害時に大いに活用していただきたいですね。さらに、河川水位計や監視カメラによる水位上昇情報を基に、避難勧告の判断基準やマニュアルを整備し、平成21年度水害時には不十分だった避難勧告が適切にできるよう改善したところです。

ーソフト面での対策は充実しつつありますが、市民へのお知らせのしくみはどうでしょう。いざという時に、情報を

知らなかつたという声も聞かれます。

タイムリーな情報の把握、市民の皆さまへの発信は重要です。福岡市の防災・危機管理情報ホームページ（図）では気象の警報や注意報を直ちに更新しており、河川水位やカメラ映像も公開しています。さらに、防災メールではご登録いただいた携帯電話等に電子メールで河川水位や雨量の状況、警報・注意報等を発信していますので、情報を基に判断し行動していただけると思います。登録者数は21,586人（平成22年10月末現在）、さらに多くの方にご登録いただき、災害への備えとして役立ててほしいですね（図参照）。また、洪水ハザードマップ（P6～7参照）は、平成11、15年の水害を踏まえ、大雨によって河川が氾濫した場合の浸水を想定したマップで、水害時の避難準備に参考にしていただけます。しかし、平成21年7月の水害では内水氾濫による被害想定がマップに掲載されていなかったため、十分でないという声がありました。よって現在、専門家と行政からなる検討委員会を立ち上げ、改訂版を作成中です。マップを河川ごとから区単位に作成しなおし、より使いやすいものになります。来年の梅雨前までに全世帯への配布やホームページで公開を行います。

ー防災協力体制、府内の連携、職員の訓練なども重要ですね。

災害時は、市だけでは対応が難しく

災害発生時の応急対策を迅速に行うために色々な専門機関や民間企業と協定を締結しています。また、昨年の水害を踏まえ、府内の体制を整備しました。ひとつは災害予防対策会議の設置です。災害時の災害対策本部と別に、日頃から風水害や震災の予防対策を全府的に協議し、防災・危機管理体制を強化するものです。もうひとつは、災害復旧支援会議の設置です。災害復旧・復興本部の設置までに至らない災害については、復旧支援対策会議を開催し、災害への復旧対策が円滑かつ効率的に進められるよう全府的な協議調整を行うものです。さらに、平成22年度から各区役所の総務担当課に防災・危機管理を担当する係を新設し、平常時から地域・区役所・本府との連携を強化し、本市の防災・危機管理体制の充実・強化を図りました。また、全職員を対象とする訓練・研修を平成20年度から27年度までの8年計画で実施しており、あわせて各局等の防災業務の中核となる職員については毎年梅雨時期前に研修等を行っています。昨年の水害時、土のうの準備が不十分との反省があったので、道路下水道局と協力して各地域に



写真1: 博多駅周辺の道路は冠水し、車が動けなくなった



写真2: 浸水した地下鉄博多駅構内

土のう袋を配布し、区役所や消防署が地域の皆さまと一緒に土のうの作成や災害に備える実地訓練等も行いました。

ー近年のゲリラ豪雨の頻発など、行政だけでは市民の生命・財産を守るのが難しくなってきています。今まででは、公が市民を守るという考え方（公助）が中心だったのですが、地域が皆で助け合う共助、それから地域や公の手が差し伸べられる前に、市民が財産や生命を守る自助が重要なわけです。

災害対策は「自助」、「共助」、「公助」の3つが上手く組み合わされて最も効果的になると思います。「自助」では、自らの安全は自らが守るため、防災知識を身につけ、必要な情報を集めて行動していただきたい。「共助」としては、災害発生直後の人命救助や初期活動で、近隣住民の協力が非常に大きな役割を果たしています。「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚と連帯感に基づき、自主防災組織が結成されています。福岡市では平成7年に博多区に初めて結成され現在までに146校区（平成22年10月末現在）、約98%の結成率となっており、自主防災組織の活動に大変期待しています。個人、地域あるいは民間の力では解決できない「公助」を市が担います。

ー最後に、市民の皆さまへメッセージを。

本市では、過去の災害の教訓から様々な対策を進めています。過去の災

害の教訓を次の災害に活かすことにより、災害時の被害拡大防止に今後とも努めてまいります。しかし、近年の気象状況はより複雑化し、過去の経験値では対応が難しい事態も生じています。そのため、気象台はじめ関係機関とのより一層緊密な連携を図るなど、これからも災害に対する備えを怠らず、気持ちを引き締めて災害への備えを万全にしていきたいと考えています。災害はいつどのような形で起こるか分かりません。災害が大きくなればなるほど行政だけでは十分な活動が行えない面があります。被害の拡大防止軽減には市民の皆さまのお力が必要です。福岡市は市民の皆さまと一緒に災害に強い、安全で安心して暮らせるまちづくりをすすめていますのでご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

（聞き手：（財）福岡アジア都市研究所 常務理事 原重実）



図：福岡市防災・危機管理情報ホームページ

福岡市防災メールに  
お申ください！

メール配信サービスの登録は、こちらに空メールを送信してください。  
entry@fukuoka-city.jp  
(このメールは、本サービスの運営を委託している事業者に直接届けられます)

QRコードで  
メールアドレスを  
取得できます。



# 風 水害に強いまちをつくるインフラ整備

## ～福岡市道路下水道局～

### 河川整備事業

福岡市は、近年の浸水被害を踏まえ、ハード・ソフト両面から浸水対策に取り組んでいるところである。

ハード対策は、主要な河川である都市基盤河川（市域内20河川のうち3河川を事業実施中）及び準用河川（市域内25河川のうち1河川を事業実施中）を主体とした市内各河川の改修事業を推進しており、平成21年7月の中国・九州北部豪雨では、整備完了した河川からの溢水による大きな浸水被害は発生していない。なお、被害が大きかった那珂川と樋井川については、県が「床上浸水対策特別緊急事業」の採択を受けたのを機に、市は平成22年6月「那珂川・樋井川床上浸水対策推進室」を設置し、県と連携強化し改修事業の促進を図っている。

ソフト対策は、「まるごとまちごとハザードマップ事業」として、浸水実績に関する情報や、アンダーパス箇所の道路冠水時の車の進入による被害を防ぐための注意喚起表示など、浸水被害に対する市民への情報提供を強化するとともに、水防活動に必要な水防資材及び倉庫の拡充や水位標の増設を行っている。

今後とも、ハード・ソフト対策の充実を図るとともに、河川施設の延命化対策や河川の適切な維持管理を行っていく。

### 下水道整備事業

近年、都市化の進展に伴う雨水流出量の増加や、多発する集中豪雨により

『福岡市・新基本計画』は政策目標5「災害に強く、安全で安心して暮らせる都市となる」を掲げており、治水の根幹となる河川整備及び雨水排水の要である下水道整備を担う道路下水道局は様々な浸水対策を行っている。



都市基盤河川改修事業（締打川排水機場） 都市基盤河川改修事業（那珂川） 準用河川改修事業（片江川）

すでに下水道の整備を完了した地区も浸水安全度が低くなっている。そこで、福岡市雨水整備緊急計画『雨水整備Doプラン』では、平成11年6月29日の集中豪雨で浸水被害が発生した地区のうち、特に被害が重大で過去にも複数回浸水した59地区的対策を重点的に進めることとして、平成21年度までに全地区に着手し33地区が完了している。特に、平成11、15年の二度、甚大な浸水被害を受けた博多駅周辺地区対策の『雨水整備レインボープラン博多』では、排水計画の見直しを行い、整備水準を79.5mm/hr（平成11年6月29日の最大降雨）に対応とし、従来の流下型による雨水対策に加え、雨水貯留管・浸透施設等を導入した雨水流出抑制にも取り組んでいる。その結果、昨年7月の中国・九州北部豪雨では、観測史

#### 『雨水整備レインボープラン博多』



博多駅周辺の被害状況（平成11年6月29日）

福岡市消防局は、消防本部と7消防署24出張所で構成され、職員1,024名をもって火災をはじめ、救急、救助等あらゆる災害から、市民一人ひとりの安全を守るために、迅速な対応を行うとともに、これらの災害の未然防止及び被害防止を図っている。昨年の7月24～26日に発生した「平成21年7月中国・九州北部豪雨」災害では、消防隊及び消防団延べ3,857人で対応し、土砂崩れにより生き埋めになった男性の救出や豪雨による各種被害の軽減に努めた。また、被害防止等の施策として「災害に強い地域づくり事業」を掲げ、区役所・消防団・福岡市防災協会等と連携し、地域の防災力向上を図るために自主防災組織が行う消火・避難訓練等を積極的に支援するとともに、救命講習や防災に関する各種講話を実施している。

# 風 水害時の消防活動

## ～福岡市消防局～

### 各種災害対応

消防局は、災害による被害を最小限にとどめるため、あらゆる災害を想定した訓練を行う一方、装備・資機材の充実や災害対策をたてるなどして、的確な災害活動ができる体制をとり、消火及び人命救助などの現場活動に全力で対応している。

また、隣接市町村や福岡県全ての市町村と消防相互応援協定を締結。火災などの災害発生時に市町村の管轄を越えて相互に応援出動できる態勢を整えている。さらに、地震や水害・台風などの場合は同時期に多くの災害が発生するため、日頃から市内外の関係機関（警察、自衛隊、海上保安庁）と合同訓練等を行い連携を深め、災害対応体制の強化に努めている。

地震等の大規模災害や特殊災害（生物・化学テロ等）の発生時の対応としては、全国の消防機関が相互に応援を行う体制として全国で4,278隊の緊急消防援助隊を登録しており、これらの消防隊が消防庁長官の指示又は求めにより、都道府県単位で被災地に出動する仕組みがあ

る。さらに、他都市からの応援車両の燃料の提供について民間事業所と協定を結ぶなど受入れ体制の充実を図っている。

### 通信・指令と市民への情報提供

災害救急指令センターは、コンピュータや通信技術等を活用し、119番受付から消防隊・救急隊への出動指令をはじめ、情報収集・現場支援・関係機関への連絡、市民への情報提供などの一連の業務を迅速かつ的確に行っている。市民への災害などの情報提供は、従来、災害情報ダイヤル（0180-99-9595）による音声サービスと、消防局ホームページ（<http://119.city.fukuoka.lg.jp/>）で災害種別や発生場所を文字により実施してきたが、平成21年6月からは、これらに加え、携帯電話への火災・お知らせ・イベント情報等のメール通信サービス「福岡市消防情報メール」も始めている（関み参照）。

### 災害に強い地域づくり

災害被害を最小限に食い止めるには、



平成21年中國・九州北部豪雨時の救助活動。救助工作自動車（左）、消防隊員（右）

対処法を一人ひとりが正しく認識し、地域ぐるみで日頃から防災に取り組んでいく必要がある。消防局では、小学校区ごとに担当者を定め「災害時に自分たちの命・財産を守るために何をすべきか」をテーマに講座や訓練を公民館などで開催し、災害に強い地域づくりを推進している。（平成21年度実績：358回、延べ31,758名参加）現在、小学校区ごとに組織される「自分たちの地域は自分たちで守る」という自主防災組織は144、組織率は96.6%である（平成22年9月末現在）。

また、消防団は、地域に密着した防災組織として災害に対する活動に大きな期待が寄せられており、風水害等の大規模災害で重要な任務を担っている。現在、福岡市の消防団は7団64分団定員2,602名。

### 平成21年中國・九州北部豪雨（7月24～26日）救助活動状況

消防隊及び消防団の出動件数は、416件、延べ568台、3,857人で対応にあたった。主な活動は、篠栗町において消防ヘリコプターにより孤立者を救出、土砂崩れにより生き埋めになった男性の救出活動、河川の溢水や家屋への浸水などを防ぐための土のう積みなどの実施、地域住民への避難誘導や広報活動など。

### 福岡市消防情報メールにご登録ください！

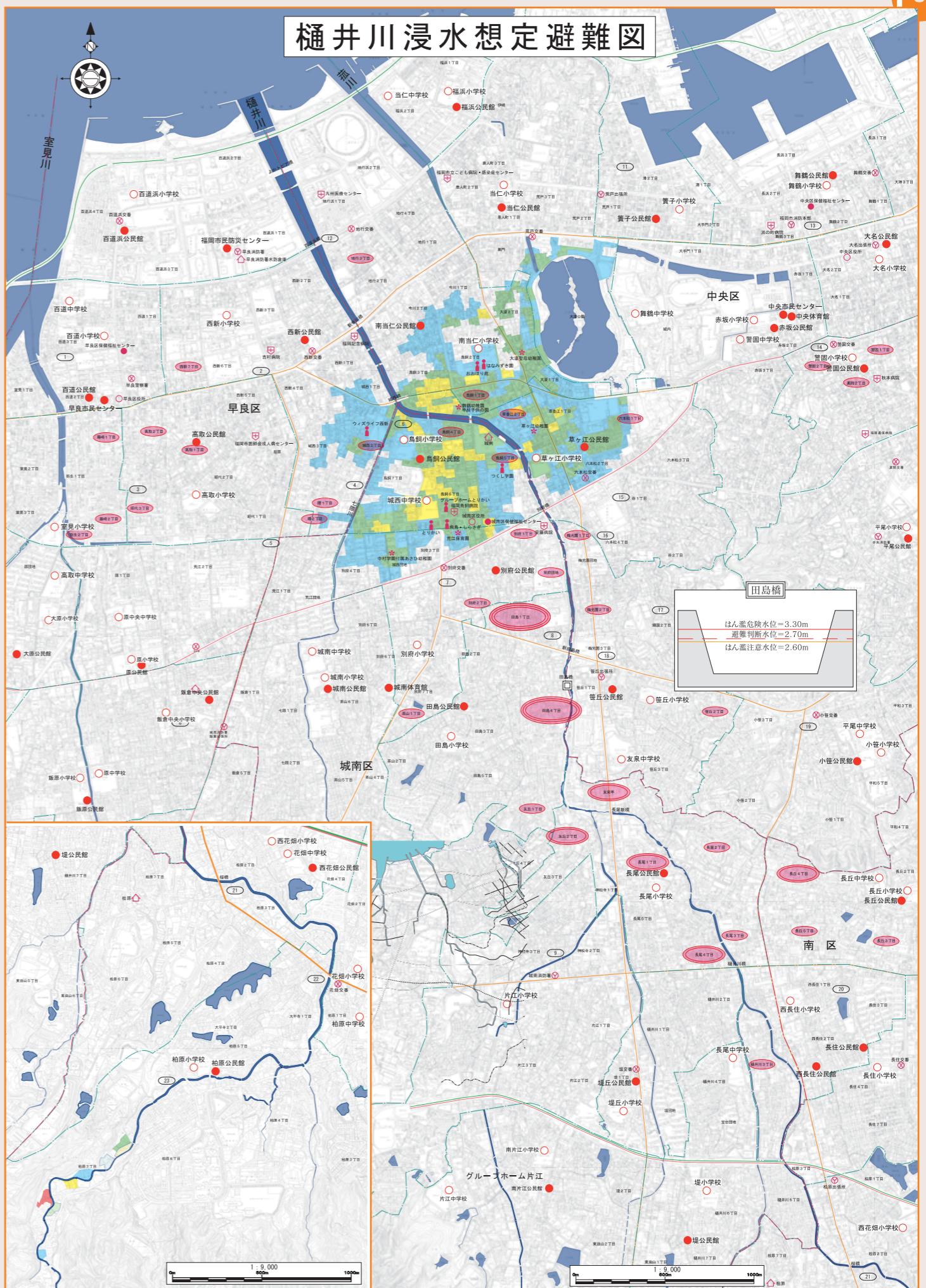
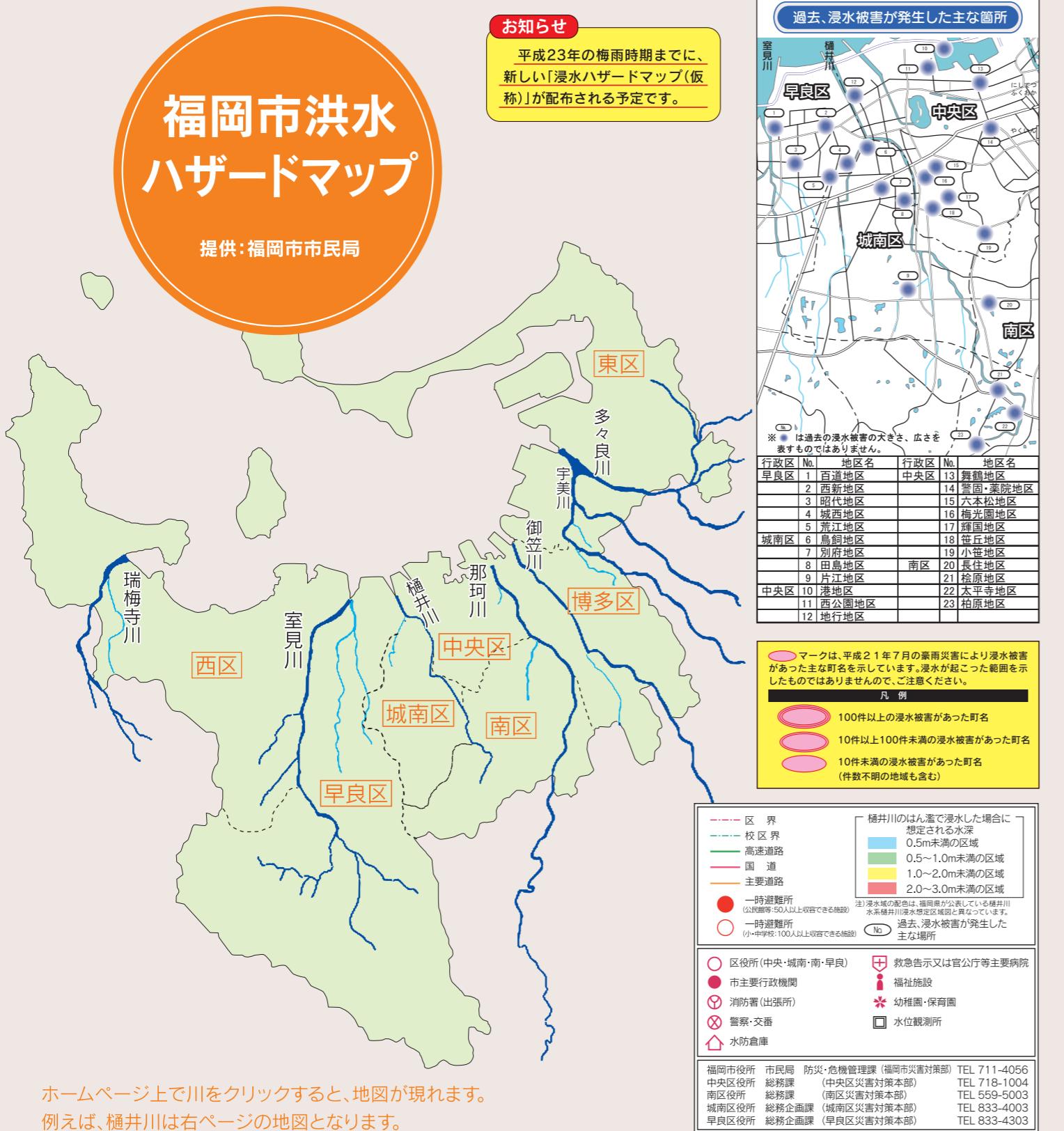
- パソコンから [http://m119.city.fukuoka.lg.jp/new\\_form/](http://m119.city.fukuoka.lg.jp/new_form/)

○携帯から  
QRコード



## 福岡市洪水ハザードマップ

福岡市防災・危機管理情報ホームページ(<http://bousai.city.fukuoka.lg.jp/>)では、福岡市を流れる6つの河川ごとの「福岡市浸水想定避難図(洪水ハザードマップ)」(<http://bousai.city.fukuoka.lg.jp/hazard/>)をご覧いただけます。大雨により川がはん濫した場合に予想される浸水の範囲や深さ、避難所などが記載されています。川のはん濫に対する普段からの備えや、円滑・迅速な避難により被害の軽減にお役立てください。



# 福岡市における近年の都市型水害の現状と課題

福岡大学工学部社会デザイン工学科 流域システム研究室 准教授 渡辺 亮一

ここ数年、都市部を襲う局所的短時間集中豪雨（いわゆるゲリラ豪雨）は、都市域に生活する住民の安全・安心な暮らしに大きな不安を与えており。地下構造物（地下鉄・ライフライン）により地下空間が高度利用されている大都市において、このような集中豪雨により瞬時に浸水が発生すれば、生命・財産だけでなく、経済に与える影響が大きく、都市機能が完全に麻痺することになる。また、今後も地球温暖化の進行に伴う異常気象によって、これまでよりも頻繁に集中豪雨に見舞われる危険性が高いと指摘されている。この温暖化豪雨ともいえる局所的短時間集中豪雨による被害を軽減するための社会基盤技術の開発は、緊急の社会的課題となっている。

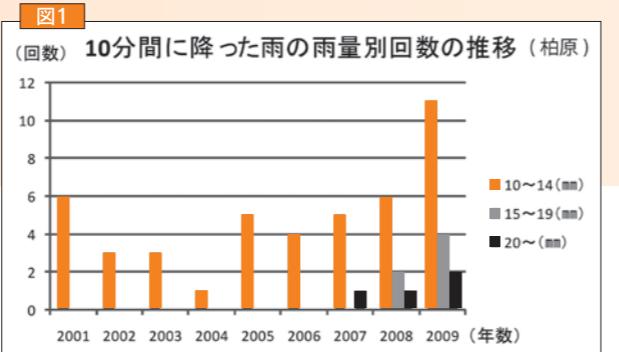
福岡市では、1999年6月に時間最大雨量77mm/hを記録した大雨により、博多駅の地下でビル地下室に取り残された女性1名が亡くなっている。この時、御笠川の外水氾濫および内水氾濫が合併して被害が拡大した。また、2003年7月に御笠川の上流にあたる大宰府で時間最大雨量99mm/hを記録し、再び博多駅周辺が水没し、都市機能が麻痺するといった事態が発生した。博多駅周辺では2度に渡る水没事態を踏まえ、莫大な予算を投入して那珂川の改修事業および周辺地区への大口径の雨水管の埋設や浸透性側溝の設置および山王公園下に容積約2万トンの地下水貯留タンクが築造され、昨年（2009

年）の豪雨時（福岡空港で時間100mm超の降雨を観測）には、浸水被害が発生しなかった。しかし、福岡市の都心部から少し離れた東区・南区・城南区においては、浸水被害が多く発生した。その中で城南区においては樋井川が越水し、周辺の住宅が500戸以上浸水する被害が発生した。福岡市の今後の方針として都市機能が集中している天神・博多駅地区に関しては今後も重点的に浸水防除施設の築造に予算を投入していくと考えられるが、その郊外に位置する住宅地区（城南区など）では、博多駅や天神などのハード面からの対策は考えられていないのが実情である。

今後も毎年のように局所的短時間集中豪雨が発生する可能性は極めて高く、どのようにすればこの災害に備えることが出来るかを考えていかなければならない。そのためには、まず、近年の降雨の傾向を理解し、局所的短時間集中豪雨が発生した際の対策について住民自身が防災意識を常に持っておく必要がある。

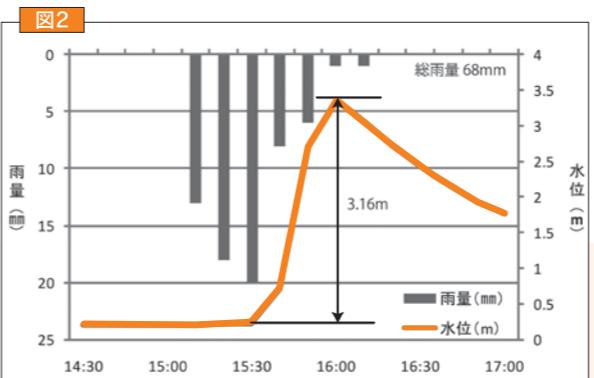
図1は、城南区を流れる樋井川上流の松原運動公園で、2001年以降観測されている降雨データを整理したものである。

横軸に年、縦軸には、10分間降雨強度（10~14mm:オレンジ、15~19mm:



グレー、20mm以上:黒)が記録された回数を示しています。この図から、2001年以降、毎年のように10分間に10mmを超える雨が記録されていることがわかる。10分間に10mmの降雨とは、1時間に換算すると60mm/h超の降雨となる。ちなみに、福岡市の下水道は5年に1回程度の52mm/h対応するように整備されており、また、現在、福岡市道路下水道局がレインボープランで目標として設定している降雨は10年に1回79.5mm/hである。また、2007年以降10分間20mm超の降雨（図中の黒）が毎年記録されるようになってきていることがわかる。すなわち、1時間当たり100mmを超える強度の降雨が連続して発生している。この原因としては、地球温暖化に伴う異常気象やヒートアイランド現象の影響などが考えられ、現時点では原因を特定するのは難しいが、明らかに九州北部の気候が亜熱帯性の気候に移行しきっている可能性が示唆されている。

次に、図2は、2008年8月8日に樋井川流域で観測された局所的短時間集中豪雨時のハイドロ・ハイエトグラフを



表している。この時、総降雨量は68mm/h程度で1時間の雨としてはあまり強いとは言えないが、15時30分に10分20mmの降雨を記録している。この降雨後10分間で樋井川（田島橋）の水位は220がと相まって、雨水が効率的に河川に

cm上昇していることがわかる（この年、7月28日に神戸市都賀川において10分間に134cmの水位上昇が記録され、死者5名という悲惨な事故が発生している。）。このように、福岡市内でも短い時間で河川に一気に水位が

集めるシステムが拍車をかけていると考えられる。このような傾向を踏まえて、都市耐水の強化（洪水調整池、地下分水路、地下鉄入り口などに止水板）やソフト対策としての内水ハザードマップの整備、住民への防災意識の啓蒙活動がますます重要になってくると思われる。



わたなべ りょういち  
1965年生まれ、宇部市出身。1997年九州大学大学院博士課程終了後、福岡大学工学部助手に採用。2009年から現職。主な研究は、水環境から水循環に至る都市域における流域システム。福岡大学に建設された仮設人工芝サッカー場における雨水貯留・浸透に関する研究を行う。主な著書（共著）は「よみがれ里山・里地・里海」（築地書館、2010年）。

## 福岡水害（1999年・2003年）を経験して



福岡市交通局施設部施設課  
建築第1係長  
**小牧 重己さん**

福岡市交通局においては、1999（平成11）年及び2003（平成15）年に博多駅のコンコース、ホーム、線路部分が浸水したため、ただちに浸水防止、排水、清掃及び駅設備等の復旧、点検を行いました。1999年は、当日に運行を再開しましたが、2003年は浸水被害が大きく、運行の再開が翌日になりました。  
交通局では、地下鉄沿線各所に設置された雨量計（4箇所）、及び河川水位計（福岡市防災・危機管理情報）からの情報を常に監視しています。各計器の情報が規制値を超えた場合、関係箇所へ情報を配信すると共に、直ちに巡回監視、止水板設置等の警戒体制を行います。  
駅の出入口には、大雨などによる構内への浸水を防ぐために全駅に止水板を配置しています。災害時に迅速・的確に止水板の設置が行えるよう、駅係員は日頃から訓練を行い、災害発生に備えています。  
引き続き、安心してご利用いただけるよう、一丸となって取り組んでいきます。

## 博多駅浸水防止合同訓練

福岡水害後、博多駅に隣接する運輸・ビル・ホテルの事業者が参加して、2004（平成16）年から毎年、2006（平成18）年からは「福岡市市民総合防災訓練」の日に合わせて実施し、安全・安心に利用していただけるよう防災体制の強化に努めています。今年は5月20日に9事業者約110名が参加し、大雨洪水警報が発令されたことを想定した通報連絡訓練、止水板設置訓練、鉄道3社（JR九州・JR西日本・福岡市交通局）による救急救助訓練、福岡市交通局所有の可搬式ポンプの設置訓練を行いました。来年は新しい博多駅が完成し、利用者数の増加が見込まれるため、さらなる安全確保が求められています。



株式会社博多ステーションビル  
管理部（保安担当）管理課長  
**石橋 哲朗さん**

弊社は博多駅に隣接する「マイニング博多駅名店街」「博多駅地下街」（一部）の賃貸・管理などを行っています。  
博多駅地区総合共同防火管理協議会（博多駅近隣ビル13社が会員）に加入し、普段からビル同士の親睦を深めることで災害時の連携強化がなされています。  
1999年及び2003年の浸水時は、テナントが閉店し復旧作業を行いました。水害後は様々な対策を検討し、土のうや水中排水ポンプの増設、止水板の設置などを行って、さらに2008年制定の「博多駅地下街 浸水時避難計画（浸水対策マニュアル）」では、水害対策本部の体制や任務、情報伝達や避難誘導などが整理されました。  
普段から水害への危機意識を持ち、すぐ対応できるよう万全の備えをしています。

## 春住校区自主防災会

1997（平成9）年結成、町内会幹部役員からなる自主防災組織です。  
1999（平成11）年6月に御笠川が溢れた時は、あつという間に腰まで水が来て道路は冠水。立ち往生した車を高台である日吉神社に個人で誘導しました。浸水時に安全な避難場所を考える教訓になりました。  
市が指定している避難場所は風水害時には十分でないものもあり、高齢者等が徒歩3分程度で避難できる安全な自主避難場所を校区で指定しました。これを明示した「春住校区安心安全マップ」が校区全戸に配布されています。  
戸建て住宅が多く皆が顔見知りの時代から、集合住宅が増え、住民同士が知り合う機会も少ない時代になりました。防災には校区の連携が必要なので、日頃のコミュニケーションが重要な課題となっています。



特集

風水害からまちを守る

# 福岡市での市民による風水害対策

▶ 地域と行政が共働で災害対策に取り組む 福岡市東区区政推進部総務課 防災・危機管理係長 守田 宜昭

## 災害時に使いやすい「校区防災マップ(水害版)」

「避難所」「土のう置き場」「水に浸かつた宅地や道路」「避難場所までの経路」などをマークで表示、裏面には「避難場所、緊急時の連絡先」「水位標の見方」など災害時に必要な情報を掲載。

平成22年5月、災害時に住民が使いやすい「校区防災マップ(水害版)」を筥松・多々良・松島校区の自治協議会の皆さんと共に作成、配布しました。



## 中国・九州北部豪雨を教訓に校区でワークショップ開催

多々良川水系の多々良川、宇美川、須恵川、綿打川の流域に位置する筥松・多々良・松島校区は平成21年7月24~26日の中国・九州北部豪雨で約380棟の建物が床上・床下浸水する被害が発生しました。この3校区は平成11年、15年の水害でも大きな被害が発生しています。

各自治協議会では民間所有の避難所使用や民有地への土のう設置の承諾など校区での取り組みを行って頂き、マップ掲載事項を決定しました。

区職員も被害の状況や行政に望むことなど地域の声を直接聞くことができ、地域の実情に応じた災害対策の見直しを行うことができました。

対応についても問題点が指摘されました。

東区では、災害対策本部の当日の動きを検証し、班体制や人員を見直すこととしました。しかし避難所や土のう、地域との連絡体制については地域の声を反映しなければ、より良い災害対策は実施できません。3校区の自治協議会に水害対応検討ワークショップを提案し22年1月から各校区3回開催することになりました。



ワークショップには各校区40~70人が出席。メンバーは自治会長や自主防災組織役員、民生委員、消防団員など。司会は地域活動アドバイザー。10人程度のグループに区職員も加わり、ゲリラ豪雨時のデータ、行政の動きを資料で確認しながら「被害状況と課題の共有」から始めました。第2回は避難場所、土のう置き場の候補抽出、第3回は災害時の連絡体制、防災マップの構成をテーマに課題解決に向か活発な意見交換が行われました。

## 土のう1万袋作成、配置と情報伝達・避難所開設訓練

防災マップに掲載した土のう設置場所は48か所、土のう配置数は1万袋。筥崎宮の敷地を借用し、5月13日と16日に市職員・東消防署署員延べ170人と東消防団50人、地域からも120人が参加して、7,000袋を作成。地域の防災意識の高まりを実感できました。地元企業から3,000袋の作成協力もいただきました。土のうは21~25日に職員で配置を完了しました。

地域と確認した連絡体制による情報伝達と避難所開設訓練を6月初旬に実施。区災害対策体制も河川監視の充実や機動班を新設し職員を迅速に派遣できる体制を整えました。



## 活かされた教訓

平成22年7月14日早朝、大雨・洪水警報発令中に40mm/hを超える豪雨となり多々良川水系の河川が避難判断水位を超え、避難勧告を3校区に発令しました。幸い、河川の氾濫までには至りませんでしたが避難所12か所の開設や避難広報を迅速に行なうことができました。また土のう400袋が自治会等で使用されました。

地域と協力関係がなければ、このような対応はできません。今後も地域と対話しながらより良い災害対策に努めています。

近年の水害を経験し、市民によるさまざまな活動が行われている。行政との共働、NPOや大学との取り組み。いくつかの事例を見てみよう。

## ▶ 横井川流域治水市民会議

横井川流域治水市民会議 発起人代表/九州大学大学院工学研究院 環境都市部門 教授 島谷 幸宏

### 横井川の氾濫

横井川は油山を水源に城南区、中央区を流下し、ヤフードームのすぐそばを流下し博多湾に流入する中小河川である。水質は良好で、アユやシロウオが生息する市民にたいへん親しまれている河川である。一方、昨年の2009年7月には豪雨による氾濫が発生し、大きな被害を被った。今年の夏も避難勧告が出され、水害対策が課題となっている。

水害の主たる原因是豪雨であるが、都市化も見逃せない。昨年の2009年、神戸・都賀川では、集中豪雨による急激な水位上昇により子供たちが流される災害が発生している。このような災害は都市化による流出形態の変化によるものである。国土の改変により水循環系が変わり、洪水が発生。かつての水田や山林は住宅地へと変わり、都市に降った雨は途中で貯留・浸透せずあつという間に河川へと流出する。降雨から河川までの流出時間は10分から20分。川で遊んでいたら雨が降り出すとすぐに逃げないと間に合わない。都市化により洪水到達時間は驚くほど短縮し、洪水流量は2倍以上になる。実際に、横井川では10分間に2mという急激な水位上昇が観測された。

### 都市洪水に対処するには

このような都市洪水にどのように対処すればよいのか?一つは、増大する流量に対応できる治水施設を整備する手法である。河道掘削、大規模な地下放水路の構築、河川沿いの遊水地造成などの従来型方法である。

もう一つは、流域から出てくる雨水の

流出量を抑制し、なお氾濫が抑制できない場所は氾濫域に戻す手法である。住宅、公共用地、公共施設などに水をため、浸透させる。貯めた水は、トイレ用水や植物への散水などに有効利用。

河川沿いの氾濫域はなるべく買収し、自然の土地に戻していく。同時に適正な土地利用のあり方、さらに自然環境の回復も求めしていく。治水事業に市民が参加し、地域づくりへも貢献していく。達成には河川部局だけではなく、市民や企業、様々な行政分野の協力が必要だ。前者の方法をすべて否定するわけではないが、後者こそ、今後の主流たる方法と考えている。

数あるが、粘り強く取り組んでいたい。また、特筆すべきは、福岡大学、九州産業大学、九州大学の学生、17名がこの流域治水を題材に論文に取り組んでいることである。若い学生が社会の新しい課題に取り組むことは将来の希望であり大変期待している。

多くのの方々に、この活動を知っていたい、応援していただきたい。

**横井川流域治水市民会議  
ホームページをご覧ください!**

<https://sites.google.com/site/hihikawashiminkaigi/home>



特集

## 風水害からまちを守る

## 防災どんたく

~ぼくらは防災に悩まない 楽しんで身に付ける~

## 防災どんたくとは?

2008年に始まった「防災どんたく」。毎年2月末から3月末にかけ、防災に関する啓発イベントを大勢のボランティアの手で企画運営しています。

内容は、もしもの時に役立つサバイバル体験型ディキャンプ企画、災害やボランティアに関わるシンポジウムや講演会、応急手当でやロープワークの講習会、災害時のトイレ問題を考えるイベントや、自衛隊さんの炊き出しや、寸劇や紙芝居、家屋の耐震補強の紹介と盛りだくさんです。福岡県・福岡市をはじめ自治体や企業・団体の共催・後援のもと、様々な分野のボランティアを巻込みつつ、「防災どんたく実行委員会」の面々が県内各地で楽しくやっています。

そう、「楽しく」これが、防災どんたくの大きなテーマなのです。何事も楽しく無ければ長続きはしない。それは防災活動だって例外ではないと思うのです。だったら楽しい防災イベントをやればいい。そんなイベント群です。

## 楽しく学ぶ?

毎年実施している「親子でサバイバル」。これは災害時に役立つ体験をしてもらおうと、中学生以下の子どもとその保護者を対象にしたディキャンプ企画です。昨年は『避難所に集まつた付近の住人同士で協議し、届いた食材を分配し、マッチやライターを使わず火をおこし、昼食を作る』といった想定で参加者が楽しく挑戦しました。子ども達は新聞紙などでオリジナル食器作り、身近な物を使用した救急法やロープワーク等も体験しました。

こういった経験や知識は水害はもとより、どんな災害の時にでもきっと役に立つはずです。約100名の参加者アンケートの結果、「楽しく、役に立つ経験ができた」という回答がなんと95%以上。「役に立たない楽しくない」といった回答はほぼゼロ。しかも朝から夕方まで色々と企画があり、お腹一杯の昼食も付いて参加費は1人たったの500円です。安い!

まいぎり式火おこしに奮闘して汗だくなお父さんも、妙な形のオリジナル紙食器に苦笑したお母さんも、もしもの時に備える大切さを感じたはずです。ふざけ合いながら食材を分け合う子ども達だってきっと

何かを感じたはずです。

話を聞くだけではなかなか心に残らない。でもこのイベントでは実際に苦労する。そして笑える。少し変わったキャンプを楽しみ、自分達の身は自分達で守ろうとする防災意識が芽生える。心に残る…。

そして一緒に笑った防災どんたく実行委員会のメンバーの事も、少しあえてくれるはず。



親子でサバイバル、開始時の説明



親子でサバイバルまいぎり式の火おこしの様子。全然点火しない…

## 誰がための防災どんたくか?

予算数十万円で数百万円規模のイベントを企画運営しているぞ、と自負する防災どんたく実行委員会の中には、過去に災害現場で苦い経験をした人達がいます。例えば、ボランティア団体同士や自治体との信頼関係の希薄さによる連携の悪さや、被災者同士の旧来の確執による復旧作業の遅れなどです。

個人がどれだけ準備をしても、大規模な風水害が起ればマンパワーは絶対的に足りない。様々な形の早急な支援が必要になり、そこでは人同士のつながりが重要になる。その時が来てから慌ても、簡単に信頼関係は構築できない。

だから何も無い時に顔が見える関係を作つておこう。それは誰の為でもなく全員の為なのだから。そんな思いが根底にあるのです。

## 一緒に楽しみましょう!

防災どんたくは2011年も実施します。既に実行委員会は活動再開し、イベント内容を練っています。今回も楽しめるイベントを開催します。詳しくはウェブ

防災どんたく実行委員会 世話人 波多江 勇一

サイトやブログをご覧ください。「防災どんたく」で検索。是非イベントにご参加下さい。実行委員会スタッフとしての参加も歓迎です。どうせ災害に備えるのなら、楽しい方がいいに決まっていますよ!



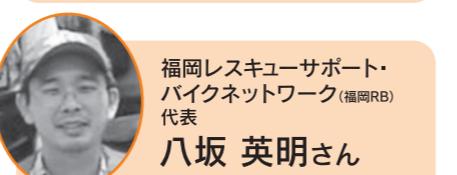
イベント検討、企画などのミーティング風景



博多あん・あん(安全・安心)リーダー会事務局長 渡本 朋久さん

・当会は、福岡市主催の防災リーダー養成講座「博多あん・あん塾」の卒業生が登録し、地域や職場の防災リーダーとして活躍しています。  
・地域防災力の向上に力を置く活動を行っています。「公助」への依存ではなく、「自助」・「共助」の必要性を分かりやすく住民に説明し、災害への「備え」や「気づき」を伝えることが重要です。地域の自主防災組織との会話から、頭の見える関係をつくり、地域の防災力向上の方法と一緒に、同じ目線での対応を日々心がけています。

・「防災どんたく」では、「みんなで防災」を主催。防災紙芝居、非常用トイレの展示、AEDや応急処置法等の体験で、幅広い層の方が災害時の対応を楽しく学ぶことができます。



福岡レスキューサポート・バイクネットワーク(福岡RB)代表 八坂 英明さん

・趣味のバイクを被災地支援に活かすために結成されたボランティア団体です。  
・特技は道路状況が悪い時の情報収集や伝達、資材の運搬ですが、災害時にいつもオートバイが必要とされる訳ではありません。その時にはオートバイを使わない支援活動、例えばガレキの撤去などにも積極的に参加します。  
・災害時以外には、ツーリングやバイクのレースに参加するなど、バイク仲間の気楽な団体です。

・防災のプロでない私達が災害時に活動するには様々な団体との関わりが大切と考え、参加した防災どんたく実行委員会。普段の社会生活では知り合えないような「人」と「人」との関わりに戸惑つたり感動したりと楽しんでいます。

○福岡RBホームページ  
<http://fukuokarb.hip.infoseek.co.jp/index.html>

## 自分でできる風水害被害軽減対策

## 車の浸水トラブルを防ぐ

(社)日本自動車連盟(JAF)九州本部・福岡支部

JAF福岡支部は、今年の7月14日(水)午前0時から12時までの12時間に福岡県で170件(福岡地区47件、北九州地区78件、久留米地区45件)の冠水車の救援依頼を受け付けました。午前2時ごろから勢いを増した雨により、県内各所で冠水車が続出。通勤時間帯と重なり、道路冠水等の影響で県内主要道路は大渋滞に陥り、移動にも時間を要しましたが、佐賀、熊本、大分から応援作業車が集結し、冠水車救援業務を行いました。

近年、梅雨時期に限らず、集中豪雨が多発しており、ドライバーに対して大雨による車の浸水に注意するよう呼び掛けています。

## ■大雨・集中豪雨時に車の浸水トラブルを防ぐポイント

- ・大雨・集中豪雨の際はなるべく運転を控える。(視界や見通しが悪く危険。無理をしない。)
- ・周囲より低い位置にある道路(地下道、※アンダーパスなど)は通らない。(落輪の危険性、エンジンルーム等に水が入る恐れ。夜間は特に注意が必要。)
- ※アンダーパスとは、鉄道や他の道路などの下を通過するため低くなっている道路のこと、大雨時に冠水する危険性が高く、車の立ち往生や水没が多発している。
- ・車の保管場所(自宅駐車場など)の状況も確認しておく。
- ・比較的水深の浅い冠水路(5~10cm程度)でも慎重に。
- ・よく通る道・地域だけでも「九州道路冠水危険箇所マップ」(国土交通省九州地方整備局ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/kansuimap/>)などで危険箇所を把握しておく。



アンダーパス

## ■車が水没したときの対処と脱出方法

- ・なによりも大切なことは、落ち着くこと。
- ・脱出の第一手順はシートベルトを外す。
- ・浸水が進むと車内外の水圧差でドアが開かなくなるので、窓ガラスが水面より高い位置にある時に、窓から車のルーフ(天井)に上るようにして脱出する。
- ・状況にもよるが、車はすぐに沈ないので、冷静な対処が重要。
- ・万が一に備え、窓ガラスを割るために、先の尖った脱出用ハンマーをディーラーやカーショップで購入しておきましょう。

車が冠水、水没した場合の車の影響や危険性を検証した「JAFユーザー試験」をホームページに掲載しています。

詳細は、JAFホームページ「地域情報」福岡から検索できます。

[ようこそ JAF福岡](#)



緊急脱出用ツール

## 防災センターで、乗る!見る!知る!体験する!



(財)福岡市防災協会

福岡市民防災センターは、いろいろな災害の模擬体験(地震体験、暴風雨体験、火災体験、消火体験)を通して、もしものときの防災に関する知識や対処法などを楽しみながら学べる防災体験コースや、消防ヘリコプター展示や防災Q&Aなどの8つの見学コーナーがあり、より身近に防火・防災に対する理解を深めるための体験施設です。

館内の水害対策コーナーでは、立体映像とボディソニックを駆使した迫力あるバーチャル体験ができ、都市型水害の怖さや対処方法について学ぶことができます。併せて、防災パネルやビデオ等を放映し、家庭や職場でもできる身近な対策や希望する団体については防

災講話(30分)も実施しています。また、福岡市民防災センター内での防災講話以外でも福岡市内の町内会やサークルなど、グループを対象に皆さん地域へ直接うかがって防災や応急手当等に関する出前講座や年間6回程度の防災に関するイベントを実施し、防災意識の普及向上に努めています。



住所 福岡市早良区百道浜1-3-3  
お問い合わせ (財)福岡市防災協会  
TEL 092-847-5990  
開館時間 9:30~17:00  
ホームページ <http://www.fuku-bou.or.jp/>  
入館料 無料  
休館日 月曜日・毎月最終火曜日  
(国民の休日にあたる場合は翌日になります)  
年末年始(12月28日~1月4日)  
夏休み期間中は休館日も開館します。



豪雨体験(6月中のイベントのみ)



特集

風水害からまちを守る

# 他都市事例

近年の豪雨・台風で甚大な被害を受けた神戸市・宮崎県では、行政はもとより市民とともに防災へ向けたまちづくりが行われている。この2つの事例に学ぼう。

## ～神戸市・宮崎県～

### 市民のオアシス都賀川

～市民と行政の協働による川のある地域づくり～

#### 都賀川と「都賀川を守ろう会」

神戸市灘区の中央を流れる都賀川は、兵庫県南部阪神地域の六甲山系から瀬戸内海に注ぐ表六甲河川24水系の一つで、上流から河口まで1.79Km、最大で1/40の急勾配です。

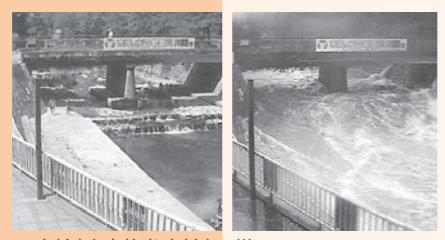
1976年、「都賀川を住民の手できれいにし市民の憩いの場にしよう」と区民会議での提案をきっかけに、高度経済成長期に不法投棄や生活用水により汚濁した都賀川に自然の美しさを取り戻し、子孫代々まで美しい川を受け継いでいくことを目的に「都賀川を守ろう会」が発足しました。

1980年には都賀川を守ろう会や市民の要望を受け、神戸市は川(川床)へ降りられる階段の設置など都賀川河川公園を整備しました。また、兵庫県は、都賀川を守ろう会からの要望を受け、1982～1994年に河川改修工事を行い、川床に幅2m程の水路を設け水深を確保し、鮎が住める環境を整備しています。阪神・淡路大震災時には、消火・生活用水に使用され区民の生活を支え、この時「川と人との関係」が見直され、兵庫県は1998年から都賀川を「防災ふれあい河川」モデルとし、普段は水に親しめる川、震災時には人を守る川として再整備しました。

#### 都賀川増水事故

2008年7月28日に発生したゲリラ豪雨で、河川遊歩道を利用中の子どもを含む市民5名が亡くなりました。短時間局的に発生した降雨により、雨水幹線から

の排水が一気に集中。兵庫県設置の水位計は10分間で1.34m、神戸市河川モニタリングカメラは2分間に1m以上の水位上昇を記録しました。



平時(左)と事故当時(右)の様子

#### 安全に安心して川と親しむ

事故直後から、二度とこのようなことが起こらないよう、市民と行政が連携し様々な取り組みを進めています。行政による注意をうながす看板の増設や大雨洪水注意報・警報発令時に作動する回転灯の設置、イベントや小学校の行事を利用した川の安全な楽しみ方の講習、大雨警報発令時の市民(防災福祉コミュニティや地元消防団)による安全見守りパトロールの実施などです。

「かつて“あばれ川”と呼ばれていた川の怖さを若い世代に伝えていきたい。安全のためには地域皆で手を結んでいくことが大切です」と安全見守りパトロールを実施している河原防災福祉コミュニティの大森末弘委員長。また、灘区連合婦人会では独自に製作した川を安全に楽しむための紙芝居を幼児・子供に読み聞かせ、川で危ない目に遭わないための3つの約束(1. 子どもだけで川に行くのは絶対やめよう。2. 雨が降り出したら川から上がり安全な場所へ行こう。3. 地域の

都賀川を守ろう会 会長 清水 康之

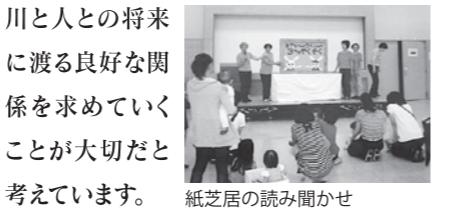
パトロール隊の言うことをよく聞こう)を呼びかけています。玉田はる代会長は「ハード面は行政が行ってくれますが、自分達にできることを考え、小さなお子さんでも分かるよう工夫しました。自然はやさしい面もあるが、厳しい面もあることを伝えたいです」。

また、都賀川を守ろう会では灘区役所と協力し、「都賀川安全ハンドブック」を発行し、区内の小中学校等を通じて各家庭に配布し、「親子でハンドブックを読んで安全に注意を」と呼びかけています。



#### おわりに

長年の取り組みが実を結び、都心の清流として甦った都賀川は市民の憩いの水辺です。都賀川の事故直後から様々な対策を行っている皆様に感謝しています。また、私達は今後とも自然の脅威を踏まえた川と人との将来に渡る良好な関係を求めていくことが大切だと考えています。



### 宮崎県の風水害への取り組み

～平成17年台風第14号災害を教訓として～

宮崎県総務部危機管理局危機管理課 主幹 松野 義直

宮崎県は、毎年のように台風や大雨による被害が発生していますが、特に平成17年9月に本県を襲った台風第14号は、死者13人、住家の全壊1,136棟、半壊3,381棟、被害総額1,288億円と本県にとって過去最大級の被害をもたらしました。

この台風第14号災害では、市町村の避難勧告発令のタイミングや情報伝達体制、住民の避難に対する意識の低さなど様々な課題が明らかになりましたが、県ではこれらを教訓に災害に強い地域社会を築くことを目的として平成18年9月に宮崎県防災対策推進条例を制定しました。

この条例では、県をはじめ県民、事業者、市町村等が「自助」「共助」「公助」の考え方をもとにそれぞれの責務や役割を認識するとともに、それそれが信頼関係を築き、連携を図っていくことが、災害に強い宮崎県を築くための基本であるとしています。

現在、県ではこの条例に基づき自助・共助を充実させるための様々な取組を行っておりますが、最も特徴的な取組と



宮崎県防災の日ポスター

してあげられるのは、毎年5月の第4曜日を「宮崎県防災の日」として位置付け、この日を中心に県民への普及啓発活動を重点的に行っています。

県では、「宮崎県防災の日」当日に住民参加型の県総合防災訓練を実施するとともに、テレビやラジオ、新聞広告などのマスメディアを活用した防災意識の普及啓発に努めています。さらに、今年度の新たな取組として、5月15日(土)、16日(日)の2日間、宮崎市郊外の大型ショッピングセンターで「宮崎県防災の日フェア」を開催しました。

このフェアは、県や市などの行政機関と民間企業、大学、自主防災組織、NPO法人など防災に関係する数多くの団体との協働という形で実行委員会を組織し、互いに連携・協力しながら準備を進めてきたもので、「体験・体感して災害に備えよう!」をキャッチフレーズに「知事と語ろう防災座談会」、「防災情報共有システム体験」、「AED・救急救命講



習」、「起震車体験」、「NTT伝言ダイヤル体験」、「防災マップ作成体験」など多くの体験・体感型イベントを実施しました。



このような防災イベントは、一般的に参加者の確保が難しく、また、参加するには意識の高い人ばかりといった傾向がありますが、今回は参加企業に防災グッズや涼飲料水などたくさんの景品を提供いただき、各イベントの参加者を対象にお楽しみ抽選会を実施するといった方式を採用した結果、子供からお年寄りまで幅広い層の県民約5,000人に参加いただき、予想以上の盛況となりました。

参加いただいた県民の皆さんには、災害の恐ろしさや家庭・地域における備えの重要性等について、改めて考えてもらう良い機会になったのではないかと思っています。

また、今回は県単独ではなく、様々な防災関係機関がそれぞれの得意分野を持ち寄ってイベントを企画したこと、県単独での実施とは一味も二味も違った多彩な内容のフェアが開催されたと考えています。

県では今後も引き続き県民、企業、大学等関係団体と協働しながら、様々な手法で県民の防災意識の啓発に取り組み、自助・共助の充実を図っていかないと考えています。

## まとめ

# 都市防災(風水害を中心に) ~公助から自助・共助・公助へ~

九州大学大学院工学研究院 環境都市部門 准教授 橋本晴行

## 福岡都市圏流域の宿命

多々良川、御笠川、那珂川など福岡市内を流れる主要な河川は、筑紫山系に源を発して博多湾に注いでおり、その流域面積は小さく、勾配は比較的急である。流域内には住宅、道路、公共施設やデパートなどの商業施設が密集しているうえに、地下空間は地下街・地下駐車場や地下鉄として利用されるなど土地利用の高度化も進行している。まさに人口と資産が集中した「中小都市河川」流域を形成している。従って、福岡都市圏流域は降雨開始から出水までの時間が短く、ひと度氾濫すれば、被害は深刻となることが容易に想像される。

2009年7月24日から26日かけて、福岡都市圏流域では最近10年間で3度目となる水害が発生した。各地で、3日間総雨量が500mmを超える異常豪雨となった。多々良川、那珂川、樋井川流域などで氾濫が発生するとともに、前原市では、通行中の乗用車が氾濫流に流されて用水路に転落し、運転していた女性が亡くなったり。急激で広範な豪雨に対して、防災関係機関は気象予測に困難を極め、被害状況の把握に手間取った。結果として避難勧告等の発令は危険な氾濫時に集中してしまった。豪雨時における「危機管理」の難しさをあらためて認識することになった。

福岡都市圏流域の最近の水害は、急激な降雨による、急激な洪水流出と河水位上昇をもたらし、降雨開始(あるいは、断続的な小雨の中、急激な降雨

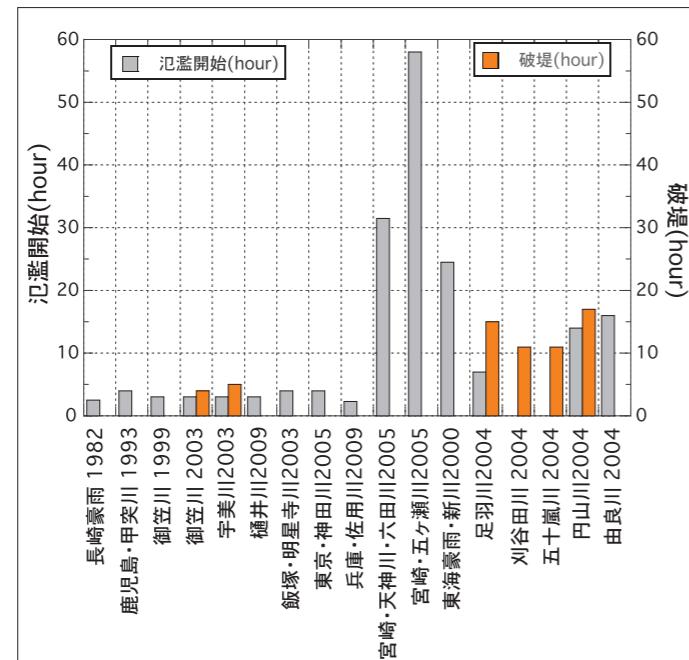


図1: 降雨開始(あるいは、断続的な小雨の中、急激な降雨開始)から氾濫・破堤に要した時間(橋本晴行・斎藤美咲、第8回都市水害に関するシンポジウム講演論文集、2009)

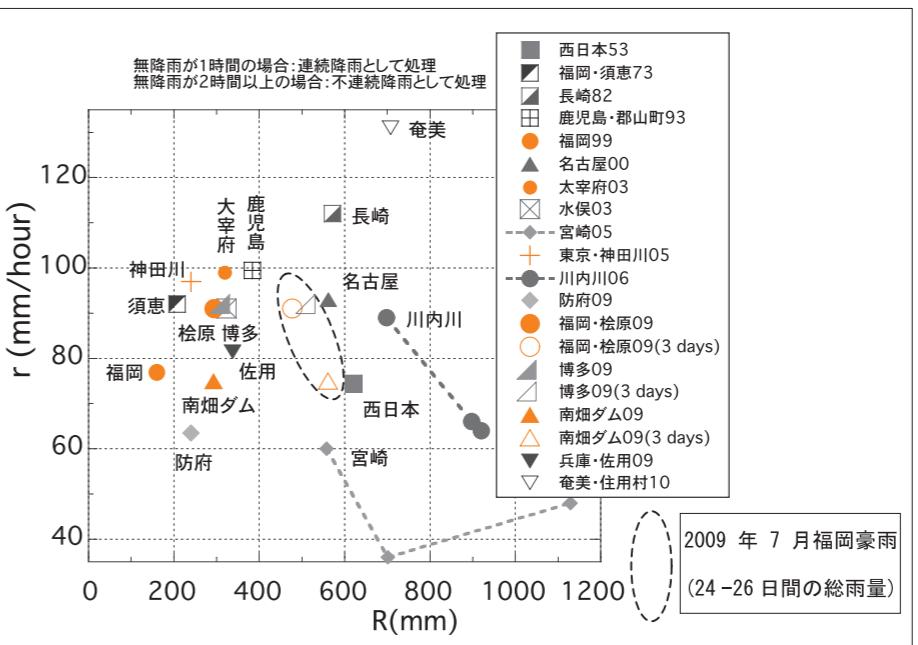
開始)からわずか2~3時間後に氾濫に至っている(図1)。福岡都市圏は、豪雨時の対応に余裕の時間が少なく、厳しい時間的な制約を宿命づけられていることを肝に銘じておくべきである。

## 「手を替え、品を替え」 やって来る集中豪雨 —様々な降雨シナリオー

災害の多くは突然に発生し、しかも人の一生の間では稀にしか経験しないものである。災害後、被災者の方々は、「思いがけない災害だった」、「まさか、ここまで浸水するとは思わなかった」などと異口同音に証言され、防災関係機関は「想定規模を超えていた」、「想定外の

ことだった」と弁解される。しかしながら、この福岡都市圏流域には「手を替え、品を替え」集中豪雨が襲来してきている。従来発生した1999、2003、2009年の豪雨は、最大時間雨量も総雨量も、さらには時空間的なスケールも全く異なる降雨シナリオを示すが、水害が起こる度に、雨量規模

は大きくなっているように見える(図2)。昨年の2009年7月豪雨に至っては、福岡都市圏流域の各地で、3日間総雨量が500mmを超え、最大時間雨量は約90mmに達する異常豪雨となつた。しかしながら豪雨発生の急激性はいずれも同様であった。福岡都市圏流域では、今後、このような規模と特性を持った豪雨を想定し対策を考えておく必要がある。しかし、全ての河川について改修や流域対策などのハード整備を行うには完成までに時間がかかるうえに、財政的にも困難な面がある。水害を完全に克服するには限界があり、ハード整備と並行して、ソフト対策を中心に水害と共存する方策を考える必要があろう。



# 6 ショッピング、グルメだけではない韓国への旅

## 釜山周辺の日本ゆかりの歴史文化遺産の紹介

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 新井 直樹

福岡からわずか200Kmの距離にある釜山。高速船・ビートルや飛行機を使い、週末に気軽な海外旅行を楽しむ釜山は、福岡市民に身近なまちであり、訪問経験がある読者の方も多いだろう。そして、自らの旅行体験や韓流ブームを思い浮かべ、現在の日韓関係は、何の問題もなく極めて良好だとお思いの方が多いのではないだろうか。しかし、昨年来、URCの調査研究の一環として、ビートルに乗る日本人、韓国人旅行者の旅行行動調査を担当し、頻繁に訪韓する機会をもつた筆者は、観光を始めとする市民レベルの日韓交流の量的な拡大が、日韓関係の質的な深化に至っているのかどうか、疑問に感じるところがある。

このレポートでは、その理由についてふれ、釜山を訪れる旅行者向けに、観光を通じた日韓のより深い交流のための一歩違った観光案内をしたい。

### URCの調査結果と 日韓関係の課題

URCが実施した福岡・釜山間の高速船利用客の調査<sup>注1)</sup>結果からは、日本人旅行者の特徴として、釜山港到着後、釜山市内のごく限られた地域(南浦洞、西面)で「ショッピング」「グルメ」だけを楽しむ、1泊2日の旅行形態をとる人が、ほとんどであることが明らかとなった。

これに対し韓国人旅行者は、博多港到着後、福岡のみならず、熊本県や大分県の「歴史文化遺産」「温泉」を訪れ、2泊3日で九州を周遊する観光が主流であった。

この結果は言い換えれば、韓国の歴史文化に興味を示さず、円高ウォン安の為替メリットがある中、ブランド品を買い漁り、韓国料理を食べることに奔走する日本人旅行者の姿を浮き彫りにしており、韓国人旅行者の日本の歴史や文化を知ろうとする観光行動とは極めて対照的と言える。

また、今年、2010年は日本の韓国併合から100年を迎える。日韓のメディアによって様々な共同世論調査が実施されたが、それら調査の結果においては、21世紀に入って、好転する日本の対韓国感に比べ、歴史認識の問題を背景として、依然として厳しい韓国人の対日感が明確に示されている。

そこで、このレポートでは、釜山を訪れる旅行者向けに、釜山周辺にある日本とゆかりの深い歴史文化遺産についていくつか紹介したい。「ショッピング」「グルメ」の様に観光ガイドに載ってはいないが、韓国南部には、日韓の二千年以上の交流の窓口の証となる史跡が多数存在している。これら歴史文化遺産を訪れると、日韓の長い交流の歴史や歴史認識のギャップ、そして、それを乗り越えようとする取り組みを体感することができるだろう。

注1)『福岡・釜山を中心とする日韓連携社会の形成に関する調査研究(本編・資料編・要旨)』(2010年3月、(財)福岡アジア都市研究所)

### 伽耶と日本のつながり 金海市「金海国立博物館」 「大成洞古墳・博物館」

釜山市の隣、金海空港のある金海市は、古墳時代に日本とゆかりの深かつた伽耶国を中心としたところである。当時の日本には鉄の精錬技術がなかったため、鉄製品を伽耶から輸入していた。金海国立博物館には福岡で発掘されたものと同じ、甲冑などの鉄製品や土器などが展示されており、当時から往来が活発であったことが一目瞭然である。博物館の隣の大成洞古墳・博物館は日本語の映像音声、説明ガイダンスが充実しており、ジオラマでは鉄を通じた日本との交易が再現され、日本と伽耶の交流の歴史がよく理解できる(写真1)。

(アクセス)金海空港や釜山市内からはバス。空港から約20分。2011年4月には釜山(沙上) - 金海空港 - 金海市を結ぶLRTが開通する予定で、個人旅行者にアクセスが非常に良くなる。



写真1：日本人の船に鉄が運ばれる様子を再現

### 朝鮮出兵(韓国では「壬辰・丁酉倭乱」)の史跡を巡る 倭城、晋州、友鹿洞

倭城は豊臣秀吉の朝鮮出兵、「文禄・慶長の役」(1592~98年)の際に、日本人が造った日本式の城郭で韓国南部に36ヶ所存在する。城跡がよく残るものとしては、福岡藩の始祖、黒田長政が築城した機張倭城(釜山市機張郡)、加藤清正が築城した西生浦倭城(蔚山市)(写真2、参照)、小西行長が籠城戦を行った順天倭城(順天市・全羅南道)が挙げられる。

倭城はこれまで韓国では負の歴史の証とされ存在すらも否定される傾向にあったが、近年、史跡公園として整備され、日本人旅行者にも訪れてもらい、歴史認識を深めてもらおうと取り組むところが見られるようになってきた。

特に、順天倭城は2008年から順天市により日本人研究者の指導の下、天



写真2：西生浦倭城の石垣

主台や石垣などの大規模な修復が行われ、広大な城跡は見ごたえのある史跡となっている(写真3、4)。

また、晋州市(慶尚南道)の晋州城は文禄の役の激戦地で、落城の際には民衆を含めた7万人が命を落としたと言われるが、現在は史跡公園として整備されている。同城内には「壬辰・丁酉倭乱」の展示を中心とした晋州国立博物館があり、現在は朝鮮出兵時の拠点であった名護屋城博物館(唐津市)と協定を結んで、学術交流を行っている。

友鹿洞(慶尚北道)は、朝鮮出兵の時、朝鮮側に投降した沙也可(韓国名：

金忠善)と呼ばれる日本の武将を祖先とする子孫たちが現在も生活する村である。友鹿洞の祠や友鹿書院があり、日本語の出来る文化解説士が常駐していて、詳しい説明を受けられる。

(アクセス)機張倭城へは釜山から来線の東海南部線、機張駅(30分)よりタクシーで約15分。西生浦倭城は釜山からKTX(20分)か高速バス(約1時間)で蔚山市に行き、蔚山からバスで約40分程度。順天倭城は釜山から高速バス(約2時間半)で順天市に行き、そこからタクシーで30分程度。晋州城は釜山から高速バス(約1時間半)で晋州市に行き、バスターミナルからは徒歩で行ける。友鹿洞へは釜山からKTX(40分)か高速バス(約2時間)で東大邱まで行き、そこからバスで約50分。



写真3：順天倭城



写真4：順天倭城の修復整備された天主台

### 浦項市 「九龍浦日本人村」

POSCO(浦項製鉄)で有名な浦項市(慶尚北道)の九龍浦では、戦前に日本人漁師が住んでいた集落に残る日本式家屋43棟を市が観光資源として保存、修復を進めており、日本人家屋の観光施設としての公開、活用がなされている(写真5)。

(アクセス)浦項市へは釜山からKTXなら新慶州まで行き、バスに乗り換える。釜山から高速バスでは約1時間20分。九龍浦へは浦項市中心部からバス、タクシーで約40分程度。

紹介した史跡は全て釜山からの日帰り観光が可能である。また、今年11月には、釜山からソウルへのKTXも全線開通し、アクセスが格段に良くなつたところも多い。海外旅行に限らず旅行にはバランスが必要だと思う。今後、訪韓する方が、「ショッピング」「グルメ」の合間に、これらの歴史文化遺産を訪問し、日韓の歴史認識や交流のあり方について考る機会になれば幸いである。



写真5：九龍浦日本人家屋通り広報展示館

# 福岡アジア都市研究所セミナー

## 持続可能な都市と農山漁村の形成に向けて

### 基調講演

**日高 健**(近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科准教授)

### 報告

**天野 宏欣**((財)福岡アジア都市研究所研究主査)

**谷島 賢**(イーグルバス株式会社代表取締役社長)

### パネルディスカッション

コーディネーター

**松本 法雄**((財)福岡アジア都市研究所副理事長)

パネリスト

**日高 健**(近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科准教授)

**谷島 賢**(イーグルバス株式会社代表取締役社長)

**伊藤 裕司**(福岡市総務企画局企画調整部企画課長)

**天野 宏欣**((財)福岡アジア都市研究所研究主査)

※所属・役職はセミナー開催当時のものです。

**主催：**(財)福岡アジア都市研究所

**共催：**福岡市、(財)日本都市計画学会九州支部

**日時：**2010年8月20日(金) 13:30~16:50

**会場：**福岡市市役所本庁舎15階講堂

### 基調講演

#### 都市近郊漁村の現状と将来 ～漁村産業の新しい姿～

**日高 健**

(近畿大学産業理工学部  
経営ビジネス学科准教授)



最初に、都市と漁村の現状についてお話しします。

漁村の類型を都市との関係で整理すると都市型漁村、都市近郊型漁村、準漁村型漁村の3つに分けられます。人口集中地区と漁業集落の距離を示すDIDによると、日本の漁村・漁業集落6,245の半分強が30分以内です。また、市街化区域にある漁村が817、市街化調整区域にあるのは733。ともに、大部分が30分以内です。都市の中に漁業集落が多いのは、近代産業都市は港湾と港湾用地が必要であり、元々漁港、漁村があつたところに臨海産業都市が発達したためです。大都市の真中には漁業者がおらず、その縁辺部に逆に周辺よりも漁業者が多い所があります。

福岡市には漁業集落が13あり、その

大部分は、沿岸部の開発が行われて漁業権の一部が消滅し、比較的大型の巾着網漁業や底引き網漁業が行われる都市近郊型漁村です。漁業者数は778、世帯数は612。漁業集落は、中央区付近に少なく、周辺に多く分布しています。漁業者の年齢構成と販売金額は全国平均とほぼ同じです。他の大都市では若者の漁業従事が多い、販売金額が高い都市近郊型漁村があるのに対し、福岡市は都市近郊の優位的条件を活かしきれていません。

次に、都市近郊型漁村の存続条件を考えます。地域においては、経済価値・生活価値・生態環境の3つの総合的価値がバランスよく成り立つことが必要とされています。これは近代産業都市でも一緒です。漁村が都市近郊にある利を生かし、都市に対する社会的機能(都市住民の生活向上への貢献・生態環境価値の保全・都市の経済活動への貢献)を果たすことが重要です。これが本質的機能(漁業者の経済活動の成立・漁

業者の生活の向上・生態環境価値の保全)へつながると理想的です。

最後に、解決策として、海業の展開と里海づくりへの貢献を提案します。海業は、海・伝統・文化など漁村にある地域資源をフル活用し、漁業者を中心に生業として進めていくもの、里海は、人手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなつた沿岸海域と定義されるものです。例えば、福岡市では朝市が盛んなので、体験漁業・レストラン・産直販売などを多面的に展開していく、従来の流通プロセスと海業を組み合わせることにより、地域産業を活発で健全なものにすることができます。里海は、持続的な海の使い方として注目されているのですが、行政だけでは限界があり、利用者と連携し、博多湾を市民にとって身近で豊かな海とする施策が必要です。博多湾を里海とすることで漁村だけでなく都市住民への大きな貢献になるでしょう。

### 報告 テーマ1

#### 『市街化調整区域の施策に関する研究II』調査報告

**天野 宏欣**

(財)福岡アジア都市研究所  
研究主査



一昨年度の市街化調整区域の課題研究を踏まえまして、具体的な施策提案として昨年度報告書をまとめました。

人口減や高齢化社会に対応する都市のあり方として、福岡市もコンパクトシティ作りを進める必要がありますが、都心の人口が増えている一方で、市街化調整区域は人口も減り高齢化も進んでいます。そのため、郊外で持続可能な漁業や農業ができる集落や、交通の便が良い良好な住宅地が形成されている拠点作りがより喫緊の課題だと考えます。

コンパクトシティを作るということは、集約拠点作りだけではなく、撤退する地域も出てくるということですが、研究では町丁目単位で高齢化、生産年齢人口、農林水産業の担い手、サービス業の就業状況、最寄りの鉄道駅までの距離、耕作放棄地の割合等のデータを分析して、4分類のクラスターを設置し、集約・撤退のシナリオを描きました。

就業構造や地理的に市街地に近い調整区域は、将来市街化区域と一体となって集約化されることを提案しています。逆に市街地から遠く、かつ農林漁業を維持する活力がない地域は、農林漁業の生産や観光等の場としての活用を提案しています。生活基盤がある集落は、良好な住宅地としての機能を担ってもらう地域、集中投資を行い持続可能な農林漁業集落として建設していく地域に分けました。

集約化を進めるにあたっては、それぞれの地域にインセンティブ、規制、パートナーシップ施策が必要だと考えます。具体的な施策として、農林漁業の振興につながる地区計画の設定、都心開発と市街化調整区域の整備をリンクさせた「ツイン市街地整備」、土地利用や住民転入に関する規制、撤退を促す土地資産の等価交

換や税制優遇、公共交通に関する官民パートナーシップ、「炭素吸収源用地」等耕作放棄地の新たな活用施策などを提案しました。

### 報告 テーマ2

#### イーグルスバスの取り組みについて～過疎地域における交通～

**谷島 賢**

(イーグルバス株式会社)  
代表取締役社長



埼玉県川越市にある当社は、バス、旅行、介護等の事業を通じ、社会の問題を解決しつつ利益を生み出す社会的企業を志向しています。

過疎地の交通事業では、工学的観点から再建を進めています。大手撤退後の路線バス事業を引受けた際は、バスの定時運行度や混雑度が見えず、ニーズに合った運行か分からない状況でした。そこで大学と協同で、乗客ニーズ、バスの運行・コスト、改善過程の“見える化”に取組みました。乗客数やバスの位置・時刻等のデータを新開発のシステムで“見える化”し、マーケティングデータを組合せてニーズと効率化を最適化したダイヤを作成しました。

乗客は十人十色で、アンケートで要望の把握に努めてもその結果が本質とは限りません。ですので、その中からコストキャップ内でできる事を改善します。コストの“見える化”は最も重要で、路線バスはそのコスト特性から、非効率な運行本数・距離を適切に改善すれば大きな経費縮減が可能です。

改善過程の“見える化”は、PDCA\*の短期サイクルを重視し、データに意味を持たせる事が大切です。PDCA周期を3年程度とし、最初はデータを見、翌年は改善した上で反応を確かめ、翌々年に再度改善します。問題解決PDCAと改善PDCAがダブルループで回ることで改善が進む、と最近分かってきました。

川越市では、観光客の行動特性に合ったバス運行を工夫し、台数を増やす新経路の開発や増便に成功しました。日高市では、遅延が常態化したダイヤを実態

に合う運転時分や本数にして改善しました。ときがわ町では、高齢者向けの交通体系、ハブ＆スポーツ化、路線バスの一本化とゾーン制運賃等のプロジェクトを開始予定です。

通勤通学は朝夕で観光は昼、通勤通学は平日で観光は土日、と相互の波動が逆に適合しています。このように観光と路線バスを組合せ、今後も路線の維持・拡大の両立を図りたいと考えています。

\*PDCA Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)

### パネルディスカッション

#### 持続可能な農村と漁村を、都市近郊でどのように形成していくのか

##### ●コーディネーター

**松本 法雄**

(財)福岡アジア都市研究所  
副理事長



今回は「人口減の進む市街化調整区域を今後どうするか」との問題意識を持って研究を進めました。結果的には「市街化調整区域を4クラスに分類し、長期的に区域内のコア地域を優遇し規制緩和を進めることで、持続可能な集落形成ができるのではないか」という提案になっています。

とはいって、こうした地域はコミュニティ密度が高く、土地の譲渡や他者の流入に拒否反応を示す方が少なくないでしょう。今回の提案は地域に様々な摩擦を生み出す可能性も孕んでいますが、そうならないよう、交流人口の拡大や、地域の合意形成の重視が今後一層重要になります。

また、都市と農山漁村の人の交流、加えて、お金の循環サイクルの形成が、持続可能な集落形成へのもう一つのポイントではないでしょうか。更に、耕作放棄地を活用した低炭素社会推進への貢献、といった一味違った視点も今後はポイントになるかもしれません。長期的に見た場合、新しい人にどうやって調整区域に定住してもらうかが重要ですが、それには地域の皆さんとの声を聞きつつ、地域の再展開を図ることが望まれます。

**日高 健**

(近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科准教授)

都市と漁村、あるいは郊外と街中の共存を考える際、生活基盤の集約と生産基盤の集約は分けて考えるべきです。例えば漁村だと、居住地＝漁港で生活基盤と生産基盤が密着しており、新たな構造転換は大きな摩擦を生み出します。生活基盤を簡単に変えられない場合は生産機能を先に整備・集約し、居住環境をその後緩やかに変化させるべきでしょう。既存コミュニティに新しい人が入って生じるコンフリクトを緩衝するには、時間はかかるけれど、多様な活動で交流人口を増やし、その中から定住人口を生み出すステップが必要だと考えます。

私の提唱する「海業」は、従来型漁業の新展開の一概念で、交流を持続的ビジネスに変えることです。物販、学習、体験…等で小さなビジネスを興し、それを基盤に多方面展開して持続可能なビジネスにするもので、農山村でも同様の取組みが可能です。調整区域の定住促進も、郊外と街中が連携してビジネスする場がないと厳しいと思います。私自身、郊外の桂川町で無農薬野菜を栽培している方と連携し、飯塚市の街中でそれを販売する活動を学生と実践中です。

海でも、藻場や干潟を企業が守るような、投資と環境保全の良い関係を考える時期です。私はNPOが新たな担い手となり、既存の行政や組織ではカバーできない部分を繋ぐことが今後の地域づくりで有効だと考えていました。

**谷島 賢**

(イーグルバス株式会社代表取締役社長)

コンパクトシティ化すればバス事業も効率的に行えますが、単に利便性だけを追求すればよいかというと、そう簡単には割り切られません。低コストのデマンドで交通基盤を維持する道もあるでしょう。全国一律ではなく、地域住民の想いや考えを反映させることがポイントです。

私が郊外路線で観光おこしをする理由、それは少子高齢化の進展で通勤通学利用が減って、観光地に行きやすい路線があれば元気な高齢者がそれに乗ることが分

かつたからで、観光おこしと路線バスの改善をセットで取り組めば一定の改善効果が出ると考えています。

過疎地の人口定着は、首長が地域交通をいかに重要と考えるか尽きると思います。事業者は行政や住民と一緒にないとダメでできません。ときがわ町の場合、町長は移動と情報のインフラ整備を重視し、さらに、雇用の場を観光で創出して、移動・情報・雇用を整えることで定住促進に向けた努力をしています。私共事業者はデマンドの応援は可能ですが、最後は首長のリーダーシップに頼る面が大きいのではないかでしょうか。

**伊藤 裕司**(福岡市総務企画局企画調整部  
企画課長)

地域で高齢化が進み、コミュニティ形成者が減少することの危機意識をどれだけ住民が共有できるかは重要で、その意識が高い地域でのクラスター化は必要だと思います。行政としても、地域の将来を住民が熱心に語る場の手伝いが必要だと考えています。

同時に、地域の産業育成の知恵出しも必要です。農山漁村に存在する様々な権益は時に大きな障壁になりますが、そこでは周辺産業の育成がポイントになるでしょう。例えば、耕作放棄地を果樹栽培目的で新規分譲したり、森林化した地区を高い緑被率のまま別荘地等に開発許可したりする、思い切った方策もあるかもしれません。また、産業が芽生えれば近接居住希望者も増えますから、その際には地区計画等を活用し、コア地域の集約過程として集合住宅を建設することもあり得るのではないかでしょうか。

「就業の多様性」は重要で、市街化調整区域もその担い手になれるはずです。農林漁業そのものに限らず、それらを活かした二次製品の生産や、土を活用した陶芸等、福岡の市街化調整区域で就業の多様性が見られるよう行政が支援しても良いと思います。きめ細かな支援の下、市街化調整区域に起業精神を持つ若い人が戻って好きな仕事に就くことは美しい姿ではないでしょうか。

広島市では、農漁村と地域活性を統合的に検討する部署を設け、そこで農漁業振興という本質的機能外の社会的機能まで含め、地域をどうすればよいか地域の方々と一緒に話しているそうで、福岡市でもそうした体制づくりについて検討をしています。

食の安全や郊外居住のニーズが高まる

中、手軽で組織的大規模な耕作放棄地の活用等で、潜在的な都市の需要を地区の活性化に繋げるコラボレーション施策をしたいと思っています。

**天野宏欣**

(財)福岡アジア都市研究所研究主査)

「生活基盤集約と生産基盤集約は分けて考えるべき」との日高氏の論には納得しました。今回提示したクラスター4分類は最終形であり、その過程では生産基盤や居住基盤をどう集約するか考える必要がありますが、その考える過程こそ、コミュニティが将来どうなりたいのかの問い合わせになると感じました。また、谷島氏の「低コストのデマンド方式もあり得る」という話は、過疎地でも工夫して交通を持続できる示唆に富み、勉強になりました。

都市と農山漁村の交流は、観光、産業、市場等の振興でも可能ですが、それ以外に資金や人を流入させる策として「低炭素」の切り口があると考えています。一例で、静岡ではソニーがメロン農家に委託して木材で温室を温めることで、農家はメロンをプレミア化し、ソニーは炭素削減に寄与するという事例がありますが、今後こうした切り口で、企業の資金や人が農山漁村に入る交流もあるでしょう。

都市が持続可能的に発展する要素として「就業の多様性」は重要で、市街化調整区域もその担い手になれるはずです。農林漁業そのものに限らず、それらを活かした二次製品の生産や、土を活用した陶芸等、福岡の市街化調整区域で就業の多様性が見られるよう行政が支援しても良いと思います。きめ細かな支援の下、市街化調整区域に起業精神を持つ若い人が戻って好きな仕事に就くことは美しい姿ではないでしょうか。

広島市では、農漁村と地域活性を統合的に検討する部署を設け、そこで農漁業振興という本質的機能外の社会的機能まで含め、地域をどうすればよいか地域の方々と一緒に話しているそうで、福岡市でもそうした体制づくりについて検討をしています。

食の安全や郊外居住のニーズが高まる

## アジア都市景観賞設立記念関連行事 「アジアハビタットフォーラム」

■開会挨拶 張 元瑞(アジアハビタット協会理事長)  
橋木 武(福岡アジア都市研究所理事長)

■基調講演 「居住と都市景観」  
野田 順康(国連ハビタット福岡本部長)  
「都市景観の形成と都市づくりの推進」  
劉 興達(アジアハビタット協会主席)

■主催：アジアハビタット協会(アジア人間居住環境協会)

■共催：(財)福岡アジア都市研究所、国連ハビタット福岡本部、アジア景観デザイン学会

■後援：福岡市

■日時：2010年9月21日(火) 10:00～12:00

■場所：アクロス福岡・国際会議場

### 主旨と概要

地球上の面積比で最大を誇る地域で、世界人口の60%以上が住むとされる“アジア”における人間居住環境の整備と関連する諸問題への対応は、世界レベルでの人間居住環境の改善に密接に関わっている。

現在、アジアの各都市において、自然と調和の取れた都市づくり、歴史資源を活かした都市づくり、文化・芸術を取り入れた都市づくり、その他創造的な都市づくりにより都市景観の向上を進めている動きが活発化している。

アジア各国の都市が良好な都市景観や都市空間の形成、生活水準の質的改善、特色ある都市の発展に向けた取り組みを一層促すために、国際賞として「アジア都市景観賞」が今年9月に創設

され、すぐれた案件の顕彰を通じて、アジア各都市の景観に優れた都市づくりへの指針の一つとしての活用を目指している。

「アジア都市景観賞」の設立記念関連行事として、「グリーンアジア・美しい都市」をテーマとする「アジアハビタットフォーラム」が開催され、国連ハビタット福岡本部長野田氏をはじめ、講演者が都市間競争における景観形成の役割や可能性について検討を行い、環境に優しい持続可能な都市成長のあり方について提言した。

当日午後、第1回授賞式も同じ会場で行われ、受賞団体は全体で6カ国・地域6都市の11団体で、日本は福岡市のシーサイドももち整備事業をはじめ、3都市・3物件が選ばれた。

なお、主催団体である「アジアハビ

タット」は、環境や生態系、歴史的文化遺産と調和した人間居住環境の意義と重要性について認識と関心を高め、政府、民間団体、企業が交流・協力できるプラットフォームとなることを目的とする、2004年2月に香港で設立された中国中心の民間学術団体である。



参加者記念撮影



フォーラム会場



野田氏講演



アジア景観賞受賞部門代表記念撮影

# データで見る福岡市

Data of Fukuoka city

vol.10

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 田村 一軌

## 福岡市の小売業の地理的分布(商業統計調査)

今回も前回に引き続き、福岡市の様々なデータを地図上に表現した「データ地図」をご覧に入れたいと思います。今回は平成14(2002)年<sup>注1)</sup>と平成19(2007)年<sup>注2)</sup>の商業統計調査のデータを用いて、福岡市の小売業のデータ地図を作成しました。福岡市は「商業のまち」と言われますが、データ地図からその実態を把握し、今後の福岡を展望したいと思います。

※今回分析に用いたデータはすべて「福岡市の統計情報」からダウンロードできます。

(<http://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/tokeichosa/shisei/toukei/>)

注1) 平成14(2004)年6月1日現在で実施 注2) 平成19(2007)年6月1日で実施

### 平成14(2002)年小売販売額

図1は、平成14(2002)年商業統計調査のデータを使って、公称町(町丁字)別的小売業年間商品販売額<sup>注3)</sup>の値によって地図を塗り分けたものです。色が濃いほど商品販売額が大きいことを示しています。最も色が濃い場所は地区全体で年間1千億円以上の売り上げがある地域です。また、グレーに塗られた地域は、事業所が少ないなどの理由から公称町別の販売額データが公開されていない(秘匿されている)地域です。これをみると、平成14(2002)年の福岡市の小売業は、いくつかの例外はありませんが、その多くが天神・博多を中心とする地区に集積していたことが見て取れます。

注3) 平成13年4月1日~平成14年3月31日の額

### 年間小売販売額ランキング

表1と表2に町丁字別的小売年間商品販売額の2002年と2007年それぞれの(秘匿地域のデータは除いた)上位20地区を掲載しています。中央区天神1・2丁目や博多区博多駅中央街の販売額が群を抜いています。また、2007年では、東区香椎浜3丁目や西区大字徳永という大型ショッピングモールが立地した地区がランクインしています。

注4) 平成13年4月1日~平成14年3月31日の額

### 平成19(2007)年小売販売額

図2は、図1の5年後、平成19(2007)年の商業統計調査の結果です。図1と同じように、公称町別的小売業商品販売額<sup>注4)</sup>の大小を地図上に色で表現しています。図1と図2を見比べると、販売額が急増している地区が都

心部以外でいくつか目につきますが、これららの地区にはいずれも郊外型の大規模ショッピングモールが立地しています。また都心部に注目すると、天神地区はそれほど変化がないものの、博多駅周辺での販売額がやや減少しているよう見受けられます。このように、2002年から2007年にかけての福岡市の商業環境の変化は、「郊外化」に特徴づけられそうです。

### おわりに

2010年3月には福岡PARCO(中央区天神2丁目・売場面積約12,500m<sup>2</sup>)がオープンしました。バーニーズニューヨーク福岡店(中央区天神2丁目・店舗面積約2,600m<sup>2</sup>)も2011年秋オープン予定です。新博多駅ビル「JR博多シティ」(博多区博多駅中央街・売場面積約85,000m<sup>2</sup>)が2011年春にオープン予定で、日本政策投資銀行[1]による試算では、売上額は約900億円となっており、福岡の商業環境に大きなインパクトを与えるそうです。「郊外化」から「都心回帰」へとトレンドが一変するのかもしれません。その一方で郊外型店舗としては「木の葉モール橋本」(西区橋本2丁目・店舗面積約22,000m<sup>2</sup>)が2011年4月にオープンする予定になっています。さて2012年の商業統計調査ではどのような地図が描かれるでしょうか?

### 参考文献

[1](株)日本政策投資銀行:新博多駅ビル開業のインパクト②~最新データに基づく再試算~.2010年9月.

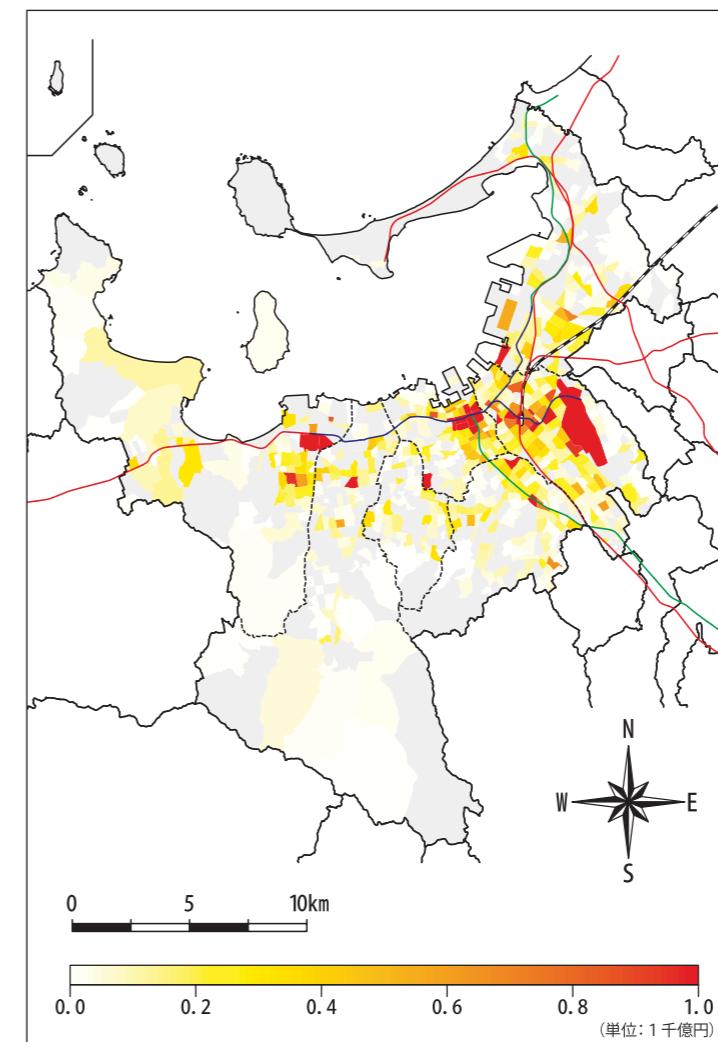


図1:平成14(2002)年小売販売額

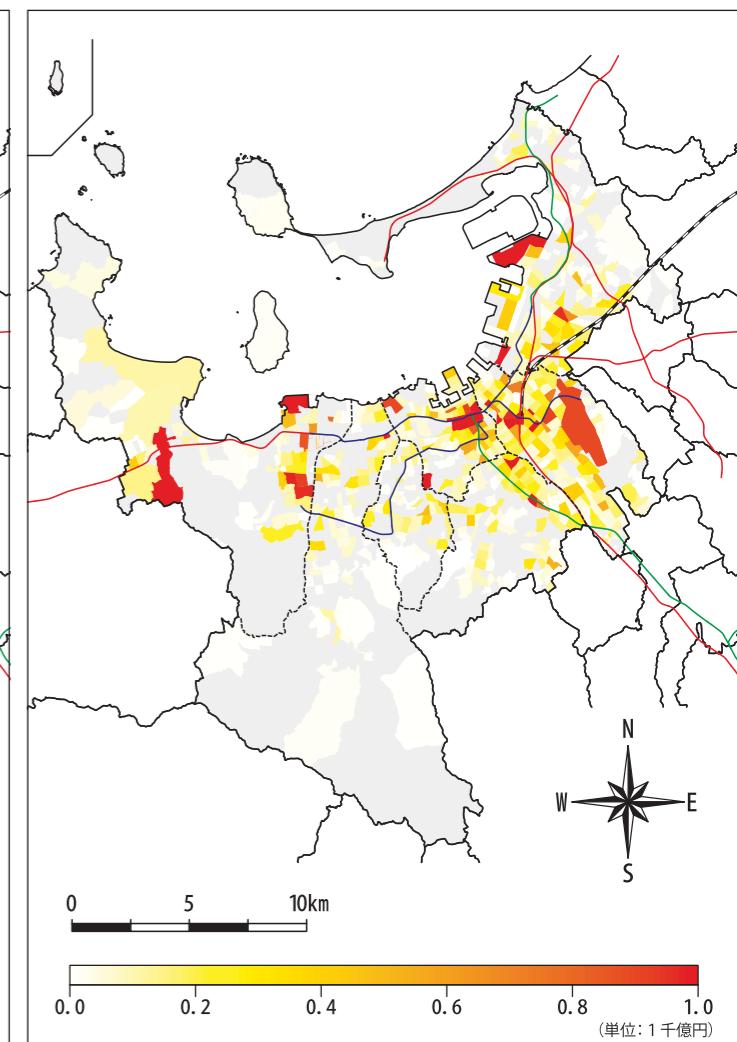


図2:平成19(2007)年小売販売額

2002年ランキング	小売年間商品販売額(百万円)	小売従業者数(人)	小売売場面積(m <sup>2</sup> )
1 中央区天神2丁目	201,033	6,096	145,616
2 中央区天神1丁目	139,048	3,497	96,812
3 博多区博多駅中央街	51,336	1,952	39,090
4 中央区今泉1丁目	26,370	507	8,756
5 東区東浜1丁目	23,550	787	44,113
6 中央区天神4丁目	22,587	1,131	40,514
7 博多区住吉1丁目	18,822	1,289	32,510
8 中央区大名1丁目	15,996	989	16,373
9 中央区大名2丁目	14,100	884	11,800
10 博多区博多駅前2丁目	13,484	510	6,189
11 南区大楠1丁目	13,469	186	1,459
12 中央区笹丘1丁目	13,290	676	20,286
13 南区大橋1丁目	13,038	1,019	16,146
14 博多区東比恵3丁目	12,043	217	3,671
15 博多区博多駅東3丁目	11,629	149	686
16 西区姪浜町	11,387	753	15,572
17 博多区大字下臼井	11,000	342	2,065
18 中央区天神3丁目	10,896	565	7,590
19 中央区赤坂1丁目	10,809	578	3,554
20 博多区東光1丁目	10,794	284	26

表1:年間小売額販売ランキング(2002年)

2007年ランキング	小売年間商品販売額(百万円)	小売従業者数(人)	小売売場面積(m <sup>2</sup> )
1 中央区天神2丁目	213,225	6,280	151,746
2 中央区天神1丁目	136,599	3,446	98,065
3 博多区博多駅中央街	83,658	2,329	44,404
4 南区大楠1丁目	36,735	224	923
5 東区東浜1丁目	24,446	1,100	39,949
6 博多区住吉1丁目	21,581	1,325	33,029
7 中央区天神4丁目	21,179	1,281	36,479
8 中央区大名1丁目	20,118	1,489	22,523
9 西区小戸2丁目	18,359	1,063	39,096
10 早良区西新4丁目	16,036	1,076	21,071
11 博多区博多駅東3丁目	15,392	216	718
12 中央区赤坂1丁目	14,392	467	4,004
13 東区香椎浜3丁目	14,142	966	29,472
14 中央区大名2丁目	13,400	892	10,644
15 中央区笹丘1丁目	13,259	769	19,488
16 博多区博多駅前3丁目	13,080	632	6,509
17 博多区下川端町	12,646	496	17,683
18 西区大字徳永	12,181	917	27,354
19 南区大橋1丁目	11,871	852	13,592
20 博多区東光1丁目	9,943	233	0

表2:年間小売額販売ランキング(2007年)

## 日韓少女漫画事情②

# 日本で読まれる韓国少女漫画

一気になる韓国最新作品、楽しさの共有

福岡女学院大学 人文学部現代文化学科 准教授 佐島 頤子

ギャグとせつなさが混じるロイヤルウエディング・ラブストーリー『らぶきょん』。気品ある人生観が光る美少女ファンタジー『シエル』。日本人も登場する、17世紀の体当たり異文化交流ドラマ『タムナ』。翻訳のタイムラグが短くなっている今、玄界灘をはさんで日本人と韓国人が同じ作品で笑つたり感動する時代が来た。

### ドラマで楽しみ、漫画で楽しみ

昨年秋から日本各局で放送が始まったドラマ『タムナ～Love The Island』は韓国の同名少女漫画が原作である。ちなみにこのドラマ制作チーム「グループエイト」は日韓の少女漫画を原作に選んで成功している。前作は神尾葉子『花より男子』、そのまた前の『宮』はパク・ソヒの『らぶきょん』だった。

ドラマヒットと前後しつつ、日本でも『らぶきょん』、『タムナ』の翻訳刊行が続いている（念のために申し添えると、『らぶきょん』日本版出版開始は、ドラマ化より前である）。ドラマ人気のおかげで漫画がたくさん読まれるのは確かだが、原作漫画が読めることでドラマに奥行きが生まれ、ドラマの人気がいっそう上がるという相乗効果もある。

### 『彼女たちのクリスマス』まで

韓国少女漫画が日本で読めるようになったのはいつからだろう。女性をヒロインとした青年漫画としては、李賢世『純姫』、黄美那『允姫－ユニー』（講談社モーニング）が日本で出版されたが、少女漫画ではなかった。90年代タ

イガーブックスから、韓国の人気少女漫画群が邦訳されたが、「今なぜこの作品を？」と首をかしげるラインナップだった。ウォン・スヨン『フルハウス』もパク・ヒジョン『ホテル・アフリカ』も韓国での発表当時はたしかに大人気だったが…。『韓国で有名作品だったから日本でも』という安直な理由で選ばれたのだろうか。漫画の句は短い。どんなに人気があっても、発表から数年以上経過した作品は「古い」である。危惧した通り、それらは完結に至る前に刊行中断された。

2000年代にはいると、日本のメジャー出版社が、目の肥えた日本読者が満足する良質な作品を韓国で探すようになる。こまやかな心理描写が光るハン・ヘヨンの短編集『彼女たちのクリスマス』（小学館）（図版1）は、日本少女漫画界の大御所・萩尾望都の推薦文をつけて出版された。収録作品はすべてクリスマスにまつわるものだが、中でも疎遠になってしまった中学時代の同級生に再会する短編が秀逸である。

不安定な思春期、それまで別に親しくもなかつた同級生に、ふと自分と同じ匂いを感じて急速に接近するものの、双方ともにその友情を安定させられない思春期のもうさが描かれる。デュガールの小説『灰色のノート』（『チボ家の人々』）への言及があることで、

韓国の作者も日本の私も同じ二十世紀世界文学の影響下にあるのだと思われた。

### フツーの女子高生が皇太子妃に！

そして『らぶきょん』が登場する。現在23巻まで途切れず翻訳出版されたのは、韓国少女漫画初の快挙である。

『らぶきょん』は韓国隔週刊雑誌WINKの連載漫画で、7回分ずつまとめて修正加筆されたものが単行本として出版される。日本版との時差は最短で1か月。訳者の私は本国単行本出版を待っていては間に合わないので、東京の韓国書籍専門店・三中堂からWINK誌が届くたびに掲載ページを下訳してスタンバイしている（図版2・3）。新しい、ということはそれほど意味が大きいのだ。

『らぶきょん』の魅力はまず、ロイヤルウエディングというわかりやすい主題だ。今もし韓国の王室が続いたら、という仮定のもと、ある日突然皇太子妃に選ばれてしまったフツーの女子高生チエギョンがヒロインである。

今時女子高生が宮中で引き起こす場違いギャグが楽しく読めるが、ラブストーリーの部分はせつなく感動させる。自己チューな王子様育ち、でもイケ

メンの皇太子が、ありのまま・ぶっちゃけキャラのチエギョンに翻弄されるうちに、ひとの気持ちを思いやり、自分の気持ちを素直に表現するすべを覚えて成長する。そしてヒロインのチエギョンも、愛するがゆえに自分が選んだ道に立ち続ける。彼女はいつ幸せになれるのだろうかと痛々しい一方、自分が本当に大事だと思う側に立ち続ける姿にすつきりとした快感を感じられる。

### 少女の成長物語『シエル』

『シエル』（図版4）の背景は魔法ファンタジーだが、テーマは少女たちの成長である。容姿・能力とともに恵まれたヒロインは、将来の夢を特に持っていないことに悩んでいる。「将来何をしたらいいかわからない」のは日韓の十代共通の悩みである。それに対してヒロインの親友は答える。「夢がなきやいけないの？ 人並みに暮らして、ちょっとした日常を楽しんで。そうしておばあさんになった時、生きててよかつたと思わないかいしら？」と。魔法でトラブルを解決したり大きな夢を実現しなくても、普通の日常を深く生き抜くことを示唆する作品である。多彩な登場人物たちも、それぞれ自分の道を見失わない



図版1  
ふと共感を覚え、心いやされる『彼女たちのクリスマス』(ハン・ヘヨン)  
©ハン・ヘヨン/小学館



図版2  
韓国本は横書きなので翻訳版も横書きです。『らぶきょん』  
©新書館



図版3  
翻訳作業はポストイットを貼って書き込み。『らぶきょん』©パク・ソヒ/ソウル文化社



図版4  
随所に深いセリフが光る、きれいな作品『シエル』©新書館



図版5  
元気いっぱい済州島ラブコメディ『タムナ』©新書館

ところが魅力的である。

### あこがれと好奇心、『タムナ』

『タムナ』（図版5）は、17世紀、東洋趣味のイギリス人美青年と日本人貿易商ヤンが長崎をめざしたもの、難波して済州島（タムナ）に漂着したところから始まる。彼らを助けたのは、アワビ捕りの海女ボジンや都の貴族、退位した元国王。日朝英の登場人物たちは言葉もろくに通じない。同じ朝鮮民族でも、都と島では完全に異文化で理解しあえない。それでも登場人物たちが体当たりでコミュニケーションを取ろうとする努力が、けなげで楽しい。

また、鎖国日本を飛び出し、国境を越えてアジアとヨーロッパをまたにかけるヤンという存在も魅力的だ。頭脳明晰なソウルの貴族は教養として日

本語を勉強しているし、海女の少女は済州島を出て外国に行ってみたいと夢を見る。人為的な国境など関係なく、あこがれと好奇心で「お隣」にアプローチする彼らの姿は、きわめて今日的である。

### 福岡で韓国少女漫画を読む

福岡からソウルは、東京よりも距離的に近いし、航空運賃も安い。そんな近さが素直に感じられる福岡では、「異文化共生」という言葉もアリティがある。「漫画」という共通のエンターテインメントを通してお隣の人々の価値観やライフスタイルを知り、お隣の人々が私たちをどう見ているかも知る。たとえば『タムナ』では、熱血型の登場人物が大騒動する中で、シニカルに場を締める役は日本人ヤンが担っている。お互いの文化の楽しい所・面白い部分を共有して、それぞれの人生の幅を広げ、より自由で柔軟な考え方ができるとしたら。

授業で韓国漫画をとりあげると最初に必ず「韓国漫画と日本漫画の違いは何ですか？」という質問があがる。しかし「違い」を指摘する前には、まず共感が成り立つなければならぬ。学生たちは作品に引き込まれて楽しんでいるうちに、あえて違いを見つけようという意識は薄れていく。たしかに日韓は異文化社会である。しかし福岡から世界で一番近い国はどこだろう。もっと遠い国々以上に異なるとは考えにくい。私たちが共有できる領域はかなり広いのである。

#### さじま あきこ

1963年生まれ。福岡県出身。九州大学文学部大学院（史学）博士課程中途退。福岡女学院大学人文学部現代文化学科准教授。共著『漫画研究の扉』（日下翠編、梓書院）など。パク・ソヒ『らぶきょん～Love in Love』、チョン・ヘナ『タムナ～Love The Island』、イム・ジュヨン『シエル』等の韓国少女漫画を新書館から翻訳。

# アジア太平洋都市サミット

■アジア太平洋都市サミット会員都市

●海外(19都市)

オーランド市(ニュージーランド)、バンコク市(タイ王国)②、ブリスベン市(オーストラリア)③、釜山広域市(大韓民国)、大連市(中華人民共和国)⑥、広州市(中華人民共和国)⑦、ホーチミン市(ベトナム社会主義共和国)②、香港特別行政区(中華人民共和国)、ホノルル市(アメリカ合衆国)、イボー市(マレーシア)、ジャカルタ特別市(インドネシア共和国)③、濟州特別自治道(大韓民国)、クアランプール市(マレーシア)、マニラ市(フィリピン共和国)、浦項市(大韓民国)、上海市(中華人民共和国)、シンガポール、ウルムチ市(中華人民共和国)①、ウラジオストク市(ロシア連邦)⑨⑩

●国内(9都市)

鹿児島市、北九州市④、熊本市、宮崎市、長崎市、那覇市、大分市、佐賀市、福岡市④

注:○数字はf+掲載号数です。



## 第9回アジア太平洋都市サミット(市長会議)INウラジオストク開催!

2010年9月30日(木)～10月1日(金)、ロシア極東のウラジオストク市で第9回アジア太平洋都市サミットが開催されました。その概要と、これからのサミットの動きについて紹介&報告いたします。

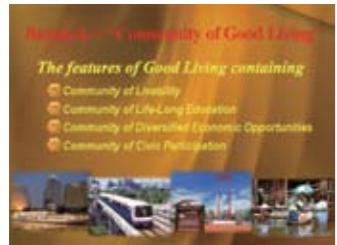
(財)福岡アジア都市研究所 主任研究員/アジア太平洋都市サミット事務局 山下 永子



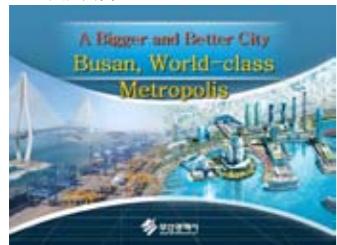
### どの都市もがんばっている!-印象に残ったプレゼンテーション-

会議では、各都市の代表者(市長等)に、将来に向けた様々な特徴ある戦略的な都市政策を発表いただきました。全ての都市が、魅力的で、そして本当に参考になる内容だったのですが、ここでは特に(福岡市の目線から)印象に残った都市発表のエッセンスを紹介します。

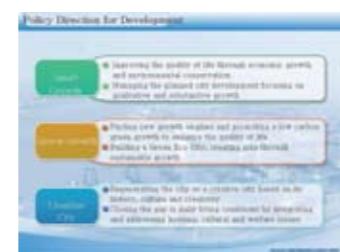
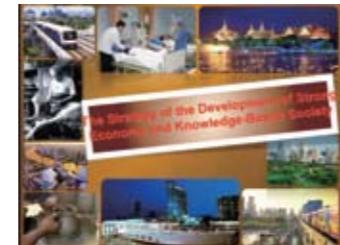
■バンコク都



バンコクは「Community of Good Living」を目指し、強い経済とナレッジベースな社会づくりを戦略の柱に



「World-class Metropolis」を目指しSmart Growth, Green Growth, Creative Cityを開発方向に据えた釜山



### 市長会議INウラジオストクのあらまし

●参加都市と代表者:会員都市(ABC順)[6カ国13都市]

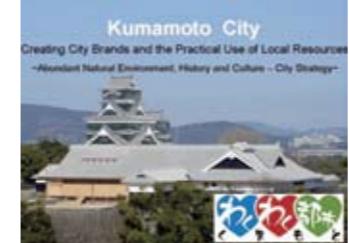
タ イ	バンコク都	知事諮問機関委員長
韓 国	釜山広域市	国際交流財団事務所長
中 国	大連市	副市長
日 本	福岡市	副市長
韓 国	光陽市	市長
中 国	香港特別行政区	地域計画担当官
マレーシア	イボー市	社会基盤担当上級技官
日 本	鹿児島市	市長
日 本	北九州市	国際部長
日 本	熊本市	企画情報部長
日 本	宮崎市	市長
韓 国	浦項市	副市長
ロシア	ウラジオストク市	市長

●公式参加者数:55名

●テーマ

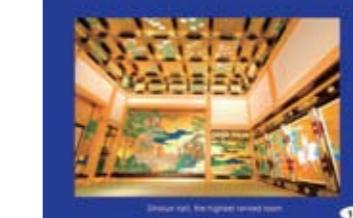
- 大テーマ:持続可能なアジア太平洋都市の発展～世界的経済危機下での新しい都市政策～
- 分科会テーマ
  - ①経済成長のための取り組み ②新しい都市づくり

■熊本市



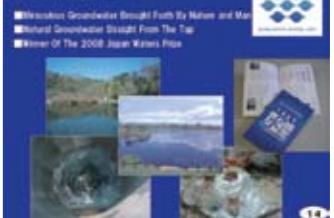
市民の寄付による熊本城の再建、水資源をいかした戦略は、東南アジアからの注目度高し

Kumamoto Castle

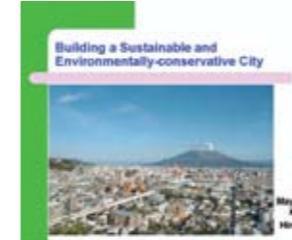


注目度高し

Kumamoto Water Life



■鹿児島市



生物多様性保護、路線緑化による温度低下の実例紹介等、独自の環境政策がキラリと光った鹿児島



生物多様性保護、路線緑化による温度低下の実例紹介等、独自の環境政策がキラリと光った鹿児島

■香港特別行政区



香港空港エリアの再開発、デザインコンセプトの1つ「Living on the Runway」にオシャレ感を感じた



香港空港エリアの再開発、デザインコンセプトの1つ「Living on the Runway」にオシャレ感を感じた



### これからのアジア太平洋都市サミット

-学びあいながらアジア太平洋地域を盛り上げていこう-

「ウラジオストク宣言」を採択して、第9回市長会議は無事終了しました。これからアジア太平洋都市サミット加盟都市は、都市間の学びあい体制を強化し、アジア太平洋地域の国際的地位の向上を目指して、もっともっと都市・地域の情報を発信していく姿勢をもりこんだ宣言を共有できることは、本サミットの大きな成果だと考えています。

### 2011年 第9回鹿児島市(実務者会議) 2012年 第10回韓国・浦項市(市長会議)

地域間競争の時代、学びあいのツールとして「都市間ネットワークの形成」、そして「実のある対話」を持った「場=国際会議」づくりが、都市にとってますます重要になってきていると感じています。アジア太平洋都市サミット事務局は、記念すべき第10回市長会議の開催に向けて準備のスタートをきました。よりよい明日の都市を目指す「アジア太平洋都市サミット」をぜひ、温かく見守ってくださいと願っています。

### ウラジオストク宣言

「第9回アジア太平洋都市サミット」が、2010年9月30日に、新たに大韓民国の光陽市の参加を得て、6カ国13都市の代表がこくウラジオストク市に集い開催された。

今は「都市間競争の時代」を迎えており、グローバル化の急速な広がりによって、人・物・資金・情報が世界を高速で駆け巡る時代になり、これらが集まる都市になることが都市政策の一つの重要な目標であると認識されるようになった。

同時に現在は「都市間連携・協力の時代」である。社会環境の急激な変化に対応し都市活力を維持し高めていくためには、「今、世界で起こっていること」を幅広く収集・分析するとともに、多様な視点からの知識・経験を結集した取り組みが求められるようになってきた。他都市との連携・協力は、その有効な手段の一つである。

今回のアジア太平洋都市サミットは、「持続可能なアジア太平洋都市の発展～世界的経済危機下での新しい都市政策」を全体テーマとし、分科会において「経済成長のための取り組み」「新しい都市づくり」について、各都市の政策を学びあい、都市間連携と協力の可能性について協議した。

その結果、アジア太平洋地域の都市が、持続的な発展を目指していくためには、我々サミット会員都市がリーダーシップを発揮しこの地域を牽引していくとともに、今後益々緊密で実践的な連携や協力が都市間に欠かせないことを確認した。

会議の閉会にあたり、アジア太平洋地域の諸都市のさらなる共同発展のために、下記の事項をウラジオストク宣言として採択する。

- 1 我々は、アジア太平洋地域の新たな活力を創造していくために、各都市の経験や知識について学びあう機会のさらなる創出、多様な学びあいツールの開発、学びあい体制の構築に努め、これまでより一歩進んだ継続性と親密性のある都市間連携・協力を進めていく。
- 2 我々は、アジア太平洋都市の競争力向上のために、アジア太平洋地域の国際的な地位を上げていく努力をすすめていく。会員都市は、お互いに協力しながら、アジア太平洋地域の潜在能力、将来的な可能性について、世界に向けて積極的に情報を発信していく。
- 3 2011年に日本国・鹿児島市で第9回実務者会議を、2012年に大韓民国・浦項市で第10回市長会議を開催する。

2010年9月30日  
ロシア連邦・ウラジオストク市にて

## 万博に沸く上海 ② ~ポスト万博~

(財)福岡アジア都市研究所 主任研究員 唐寅

246の国と国際機関が出展、7,200万人超の入場者。史上最大規模の上海万博が、当初心配された事故や事件もなく、半年の期間を経て10月末に無事閉幕した。

08年夏の北京五輪に続く、上海万博。急激な発展を続ける中国を舞台に相次ぐビッグイベントの開催は、かつて高度経済成長に沸いた日本の姿と重なる面も多い。

「城市、讓生活更美好」(よりよい都市、よりよい生活)をテーマに、「世界看中国、中国看世界」(世界が中国を、中国が世界を見る)というステージで繰り広げられたビッグイベントが、上海という21世紀の巨大都市にもたらした影響は今後徐々に現れるだろう。

公共交通や都市景観など、都市インフラ整備で、大きく変貌した上海はいま、万博後に関心が集まっている。まもなく始まる第12次5カ年計画(2011~2015年)にあわせ、上海のまちづくりも「よりよい都市、よりよい生活」を具現化する段階に入りつつある。

都市農村建設・交通委員会によると、上海市政府は今後次の6項目に重点的



文化施設に作り変えられた旧工場



中国館では、1978~2008年の中国人の住居の変容ぶりが展示された。(上)1978年、(下)2008年



環境型建築の外壁



中国館では、1978~2008年の中国人の住居の変容ぶりが展示された。(上)1978年、(下)2008年

に取り組んでいく予定(「上海:後世博城 市建設瞄准“宜居”目標」新華網2010年10月21日)。①低所得者向け公営住宅建設の加速②郊外地区大型住居団地内の公共施設の拡充③公共交通優先策の実施拡大④旧市街地改造の加速と地域住民の生活環境の改善⑤上海市民の飲用水の品質向上⑥生活ゴミの減量と都市環境の改善。

いずれも既に着手している事業だが、万博終了後には一気に加速する勢いだ。例えば、超高層ビルが密集する都心部での開発は既に限界に達したため、近郊地区のインフラ整備を加速。都心対近郊の財政支出比を従来の1.6:1から1:2に逆転し、2015年までの近郊地区への財政支出の大幅な増加が上海市により確定された。

また、交通渋滞問題が慢性化するなか、引き続き公共交通網の整備に力を注ぎ、2015年までに市内の軌道交通(地下鉄)の営業距離の600km以上の延伸、一般市民の公共交通の利用率を50%以上の引き上げも政府目標に掲げられた。1日の入場者数が最高100万人に達した万博会場への公共交通

開室:月~金10:00~17:00  
(土曜日・日曜日・祝日・年末年始・毎月最終業務日・資料整理期間(不定期)は休み)  
資料検索:研究所のホームページから資料室の図書・資料が検索できます。

文化施設に作り変えられた旧工場  
環境型建築の外壁  
日本産業館

## INFORMATION

[インフォメーション]

## ●(財)福岡アジア都市研究所自主研究テーマ

研究報告書は、全文(pdfファイル)ホームページ  
(<http://www.urc.or.jp/syuppan/kenhou/index.html>)でお読みいただけます。

## ・平成21年度

ミクロ地域の構造変容に伴う福岡市の都市構造と都市政策に関する研究  
「市街化調整区域の施策に関する研究II」

「大学移転に伴う箱崎地区の変容と地域づくりに関する研究II」

## 福岡市の国際都市戦略に関する研究

「福岡市のアジア政策の過去・現在・未来II -これまでのアジア政策の資産を有効に活用し、効果的な国際政策を展開していくための方向性・施策の研究-」

「日中経済交流人材のプラットフォーム形成に関する研究II」

「福岡・釜山を中心とする日韓連携社会の形成に関する調査研究」

## 事前調査

「福岡市における企業・事業所のWLBへの取り組み実態と政策課題に関する研究(1)」

## ■贊助会員制度

年会費(法人:一口10,000円、個人:一口5,000円、学生一口:2,000円)をお支払いいただくと、さまざまな特典が受けられる贊助会員制度があります。詳しくは、(財)福岡アジア都市研究所までお尋ねください。

TEL: 092-733-5686 FAX: 092-733-5680 E-mail: [info@urc.or.jp](mailto:info@urc.or.jp)

## ●特典

1. 研究所主催のセミナー等の開催情報をお知らせします。
2. 都市情報誌fU+を毎号1部無料でお届けします。
3. 研究紀要を毎号1部無料でお届けします。

## ■都市政策資料室

(財)福岡アジア都市研究所の都市政策資料室では、アジア地域を含む都市政策関係図書、各種調査・研究の成果報告書、行政資料などを幅広く収集・公開しております。また、アジア開発銀行の寄託図書室の指定を受けております。どなたでもご利用いただけます。

皆様のご利用をお待ちしております。

開室:月~金10:00~17:00

(土曜日・日曜日・祝日・年末年始・毎月最終業務日・資料整理期間(不定期)は休み)

資料検索:研究所のホームページから資料室の図書・資料が検索できます。



## ■バックナンバーのお知らせ



第1号  
(2006年12月25日発行)

特集 博多駅  
—現在・過去・未来—



第2号  
(2007年3月30日発行)

特集 まち歩き  
—まちの魅力再発見—



第3号  
(2007年6月22日発行)

特集 地域の商店街  
—懐かしいある商店街をめざして—



第4号  
(2007年12月14日発行)

特集 国際交流・貢献  
—国際化の取り組み—



第5号  
(2008年7月31日発行)

特集 URC20周年



第6号  
(2008年12月24日発行)

特集 まちかどイベント  
—人・文化・集客—



第7号  
(2009年6月26日発行)

特集 低炭素社会  
—温暖化対策を越えて—



第8号  
(2009年12月18日発行)

特集 路地  
—そこにある人の暮らし・都市の姿—



第9号  
(2010年6月25日発行)

特集 農村景観から  
—身近なタカラモノ—

※当研究所のホームページからご覧いただけます。

## ●編集後記

近年の豪雨で関心が高まる風水害対策を特集しました。「自助・共助・公助」さえ知りませんでしたが、いざという時のための備えを!とまずは「自助」と避難所をチェック。取材では、いざという時の助け合いには、日頃のコミュニケーションが大切との言葉が心に響きました。ご寄稿・ご登場いただいた皆さんにお礼申し上げます。(瀧山)

## ●次号予告

第11号 2011年6月下旬発行予定  
新幹線博多駅周辺のまちづくり(仮)  
2011年3月12日に全線開業する九州新幹線。九州の陸の玄関口である博多駅周辺では新たに増加する乗降客を見込んだまちづくりが進行中です。沿線の他都市も含め、九州新幹線周辺のまちづくりを紹介します。

## ●ご意見・ご感想募集中!

『都市情報誌fU+』に関する皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。紙面づくりの参考にさせていただきます。今号およびこれまでの内容、あるいは今後取り上げて欲しい内容などを郵送・FAX・E-mailのいずれかの方法で下記宛先まで。その際はお送りくださる方のご住所・お名前をご明記ください。お礼として、10名の方に『都市情報誌fU+』第11号をお送りします。

都市情報誌fU+(エフ・ユー プラス)第10号  
2010年12月17日発行

## ■発行所

財團法人福岡アジア都市研究所  
〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1  
福岡市役所北別館6F  
TEL: 092-733-5686  
FAX: 092-733-5680  
E-mail:[info@urc.or.jp](mailto:info@urc.or.jp)  
URL:<http://www.urc.or.jp>

## ■編集責任者:原 重実

## ■編集スタッフ:瀧山直子 田梅朋子

## ■デザイン・印刷:九州チューディング株式会社